

令和4年度 茨城大学 社会連携センター 年報



令和5年3月

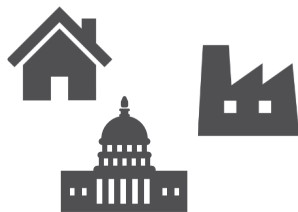
令和4年度 茨城大学社会連携センター活動報告

1. 2022年度：社連活動方針
2. 新たな取り組み
 - (1)アントレプレナーシップ教育プログラム 【資料1】
 - ①入門プログラム授業
 - ②基礎プログラム実施
 - ③起業現場視察セミナーの実施 【資料2】
 - ④茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022 【資料3】
3. 地域連携に関する主な事業
 - (1) 各種プロジェクト及び学生の地域活動支援
 - ①「地域連携・地域研究プロジェクト」
 - ②「地域支援プロジェクト（学生版）」
 - ③ 社会連携センターiOP活動報告会
 - ④学生パートナー
 - (2) 茨城大学社会人リカレント教育 【資料4】
 - (3) 社会教育・生涯学習事業 【資料5】
 - (4) 連携自治体との意見交換会 【資料6】
 - (5) 社会連携センターからの情報発信
 - (6) 茨城県子宮頸がんセミナー 【資料7】
4. 企業・産業界との連携
茨城産業会議との連携事業 【資料8】
5. 自治体・地域等との連携
 - (1) 鹿嶋市をテーマにした地域協創PBL 【資料9】
 - (2) 水戸市のまちづくりに関する施策提言 【資料10】
 - (3) 守谷市と大学との連携協定を締結 【資料11】
 - (4) ひたちなか市と大学との連携協定を締結 【資料12】
6. 社会連携活動の充実
点検評価 【資料13】

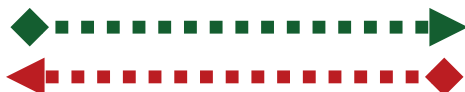


第4期：大学における地域連携

自治体・企業・産業界
他大学・地域市民



茨城大学教職員・学生



Action 3

Action 7

IBADAI VISION 2030

イバダイ・ビジョン
2030

初等・中等教育からの「連続性のある学び」を展開するとともに、リカレント教育による「生涯にわたる学び」を提供します。

研究の知見と構成員の行動力を活かし、地域の住民と共に社会の持続的発展のための活動に取り組みます。

Action 9

教育

地域連携
グローバル化

研究

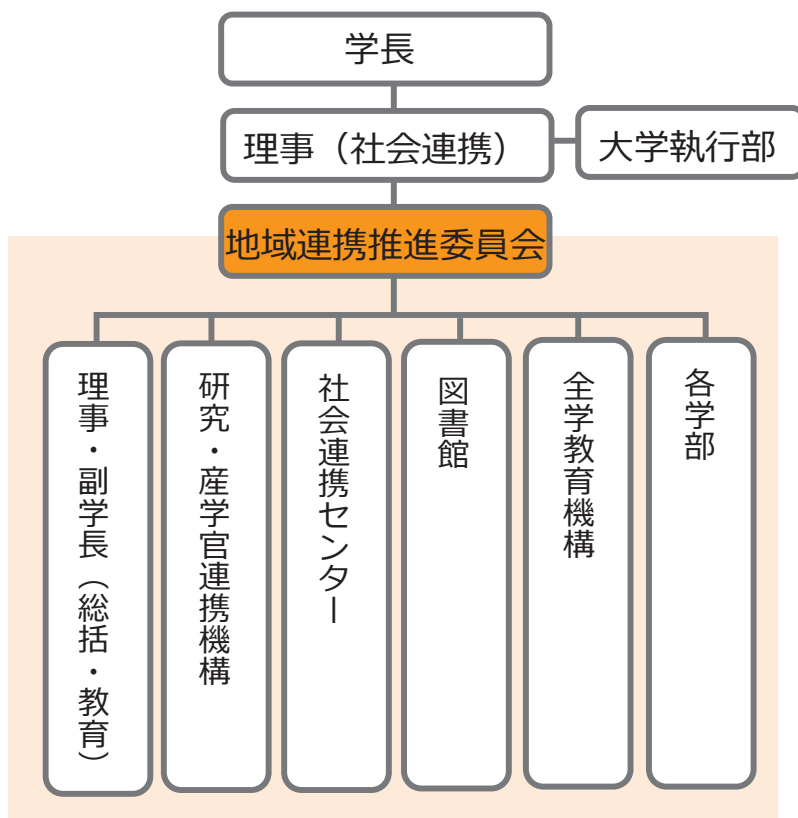
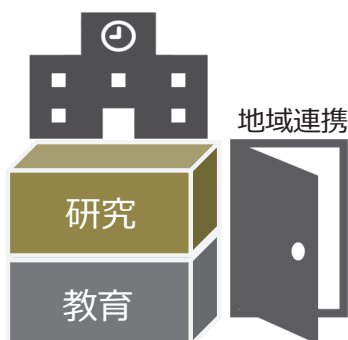
大学運営

Action 8

ICT も存分に活用しながら海外の多様な研究者や学生との交流拠点としての機能強化を図り、教育研究の国際化を進めます。

強固な経営基盤確立、社会の変化に対応した組織編成と戦略的な資源配分、デジタル技術の活用を通じて、持続可能な運営を行います。また、国内外の機関との機能的連携を強化し、それぞれが強みを活かしながら相互補完できる態勢を作ります。

大学における地域連携体制

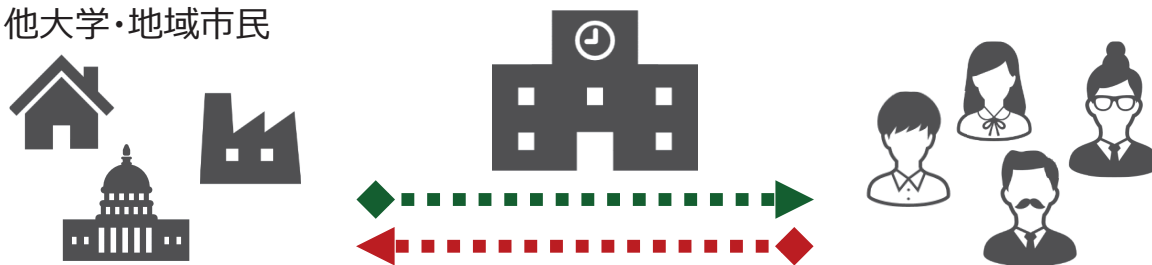


社会連携センターのミッション

自治体・企業・産業界
他大学・地域市民

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

茨城大学教職員・学生



- ① 茨城大学における学内外への「窓口」となり、大学とさまざまなアクターの方々をつなぐ「プラットフォーム」の役割を果たすこと
- ② 地域の課題を茨城大学の教育、研究、協働へつなげること

第4期中目中計における項目（５）

【社会人のキャリアアップ支援】

指標：社会人への提供が可能な授業科目数（第3期末に対して第4期末までに倍増）

* 中目中計項目（１）

【地域ステークホルダーとともに創る教育・教育改革推進体制の強化】

指標：定期的協議の実施回数（団体トップ層をメンバーとする協議を年４回実施）

2022年度社会連携センターの事業計画



地域の企業・自治体等とのネットワークの推進

- 茨城県及び茨城産業会議等との連携、「パートナー企業」連携、連携協定締結



学生・教員の地域活動の支援

- 「地域研究・地域連携プロジェクト」「学生地域参画プロジェクト」、学生パートナー



リカレント教育の推進

- 「公開講座・公開授業」「専門コース」「カスタムコース」



アントレプレナーシップ教育プログラム

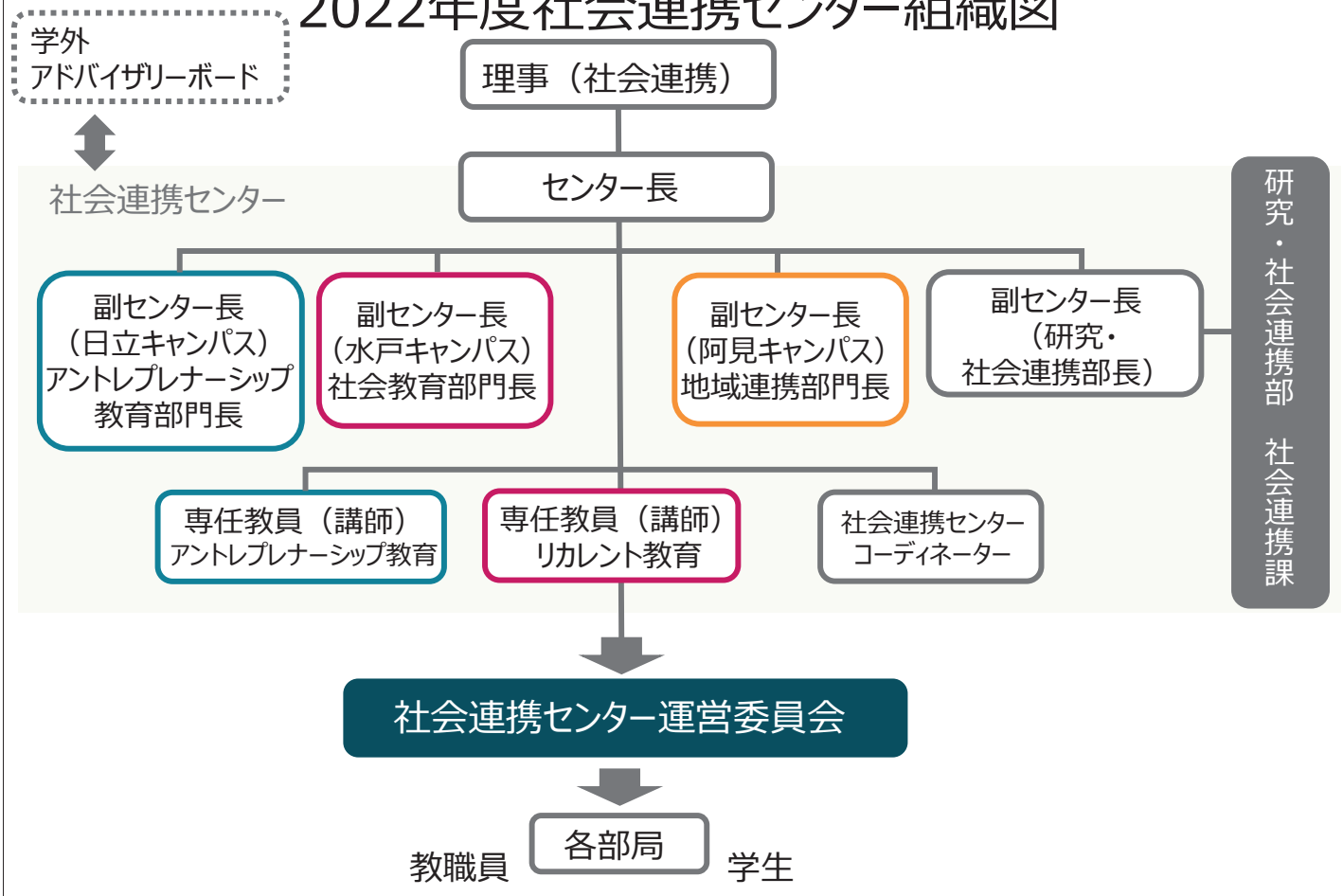
- 茨城県との連携によるアントレプレナーシップ、イントレプレナーシップ「人財」の育成



社会教育・生涯学習の支援

- 社会教育主事講習の支援、いばらきこども大学等生涯教育の支援

2022年度社会連携センター組織図



2. 新たな取り組み

（1）アントレプレナーシップ教育プログラム ⇒ 【資料1】

アントレプレナーシップ（起業家精神）を有する人材を育成するため、茨城大学と茨城県が連携し、「いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神の育成」をテーマにした新たな教育プログラムを、令和3年度10月から実施。

育成する人材像

- ① 新たな価値を事業化するための基礎的知識・技能を持った人材
- ② 地域や企業内から新たな価値を見出し、ビジネスによりその価値を高めようとするマインドを持った人材
- ③ 失敗を恐れずに新たな価値の創出に挑戦する行動力及び分析力を持った人材

プログラムの内容

1年次 入門プログラム

『アントレプレナーシップ、
イントレプレナーシップってなに？』
起業家・社内起業家としての在り方の基礎を
学びます。

- ・アントレプレナーシップが必要とされる背景を学び、自分の将来像を思い描く。
- ・企業経営者等の講義を聞いて、起業・社内起業にはどんなストーリーがあったか、起業・社内起業をするためにどんな知識・技能・環境が必要なのか理解する。

1年次～2年次 基礎プログラム

『アントレプレナーシップを
身に付けよう』
実践的な知識・技能を修得します。

- ・マーケティングや統計・データサイエンスなどの科目から、自分に必要なものを選択して学び、知識・技能を修得する。
- ・ビジネスプランコンテストなどの実践的な取組を通して、企画力や課題発見・解決能力を磨く。

3年次～4年次 実践プログラム

『経営者になってみよう』
実践を通してこれまで身に付けた知識を
統合します。

- ・ベンチャー企業等でのインターンシップに参加し、経営者の思いを聴き、企画の現場を体験する。
- ・起業を疑似体験し、これまで修得したスキルを実践し、高める。

① 入門プログラム

内容：【履修科目】「アントレプレナーシップ入門Ⅰ～Ⅲ（各1単位）」を履修

■ アントレプレナーシップ入門Ⅰ

内容：アントレプレナーに必要なスキル・資質について考える

講師：山口 豪志 氏（株式会社54 代表取締役社長）
横田 能洋 氏（認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ 代表理事）
倉田 浩伸 氏（KURATA PEPPER Co.Ltd. 代表）
鈴木 伸之 氏（マイクロソフト株式会社アメリカ本社 シニア・エンジニア）

■ アントレプレナーシップ入門Ⅱ

内容：イノベーションについて考える

講師：伊藤 俊一郎 氏（株式会社リーバー 代表取締役）
光畑 由佳 氏（有限会社モーハウス 代表取締役）
栗飯原 理咲 氏（アイランド株式会社 代表取締役社長）
堀下 恭平 氏（株式会社しびつぱわー 代表取締役社長）

■ アントレプレナーシップ入門Ⅲ

内容：プロジェクトを企画立案するプロセスを体感する

講師：三ツ堀 裕太 氏（株式会社ユニキャスト 代表取締役）

② 基礎プログラム

内容：【履修科目】 基盤教育科目または専門科目で指定する科目を2単位以上履修
【正課外活動】 指定する学内外の活動への参加

＜履修科目の詳細＞

基礎PG (2単位以上)	【グローバル化と人間社会「経済・経営」】 サービス業のマネジメントについて考える	豊崎 仁美	後学期	3Q	月4	1年LPS	LPS学生は入門Ⅰと履修時が重複のため、TA学生の履修を想定
	【自然・環境と人間「技術と社会」】 AI・データサイエンス入門	岡 友作ほか	後学期	3Q	火5	1年LP	
	【グローバル化と人間社会「経済・経営」】 計画とコントロールによるモチベーションの向上について考える	豊崎 仁美	後学期	4Q	月4	1年LPS	LPS学生は入門Ⅱと履修時が重複のため、TA学生の履修を想定
	【自然・環境と人間「技術と社会」】 統計学の基礎	野崎 実明	後学期	4Q	火5	1年LP	
	【自然・環境と人間「技術と社会」】 AI・データサイエンス入門	岡 友作ほか	後学期	4Q	火5	1年LP	
	【自然・環境と人間「技術と社会」】 AI・データサイエンス入門	岡山 毅	後学期	4Q	火5	1年A	
	【自然・環境と人間「技術と社会」】 AI・データサイエンス基礎演習	岡 友作 山本 一孝	後学期	4Q	金5	1年全学	
	【グローバル化と人間社会「公共社会」】 知的財産と社会実装	酒井 宗寿	後学期	4Q	金5	1年全学	
	【グローバル化と人間社会「経済・経営」】 会社とは何か	高井 美智明	前学期	1Q	金3	2年全学	
	【グローバル化と人間社会「公共社会」】 Society5.0とデザイン思考	原田 宏一	前学期	1Q	金3	2年全学	
	【グローバル化と人間社会「経済・経営」】 経営管理論入門（経営管理の基礎を学ぶ3）	大沼 沙樹	前学期	1Q	金3	2年全学	
	【グローバル化と人間社会「公共社会」】 社会貢献論	武田 直樹	前学期	2Q	金3	2年全学	
	【グローバル化と人間社会「経済・経営」】 経営管理論入門（日本の経営を学ぶ3）	大沼 沙樹	前学期	2Q	金3	2年全学	
	仕事の経済学	清山 玲	前学期	木2	2年	人文社会科学部専門科目	
	マーケティング論Ⅰ	今村 一真	後学期	月2	2年	人文社会科学部専門科目	
	地域金融論	林 晋 宮崎 忠昭	後学期	水3	2年	人文社会科学部専門科目	
	マーケティング論Ⅱ	今村 一真	前学期	月4	3年	人文社会科学部専門科目 R5年度からPG対象科目	
	マーケティング論	今村 一真	前学期	火2	3年	農学部専門科目【可児開講】 R5年度からPG対象科目	
	地域金融特論	宮崎 忠昭	前学期	水5	3年	人文社会科学部専門科目 R5年度からPG対象科目	
	機械学習	鈴木 智也	後学期	木2	3年	工学部専門科目【可立開講】 R5年度からPG対象科目	
	労働経済論	清山 玲	後学期	木3	3年	人文社会科学部専門科目 前年開講/R6年度からPG対象科目	

※緑色：基盤教育科目，水色：専門科目

＜正課外活動の内容＞

茨城大学が主催する
ビジネスプランコンテスト

茨城大学が主催する以外の
ビジネスプランコンテスト等

IBARAKIドリーム・パス事業
コーチ

以上3つのうち1つ以上を選択

③ 起業現場視察セミナーの実施 ⇒ 【資料2】

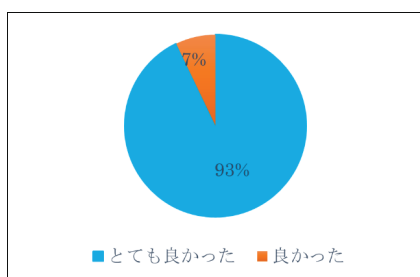
概要：起業した人がどのような現場で、どのような想いで活躍しているのかを直接見て、自身の将来のイメージを膨らませる。また、商品開発やブランディングについて学ぶ。

内容：講演（前半）、現場視察（後半）

講師：三浦 綾佳 氏（株式会社ドロップ代表取締役）

開催日：令和4年9月27日（火）

参加者：本学学生16名



◀ 終了後のセミナーの満足度（16名中14名から回答）
満足度が高く、参加者にとって有意義なセミナーとなったことが窺えた。また、参加者からの感想では、ブランディングやマーケティング戦略の話が聞けて勉強になったという旨の感想が多く寄せられた。

④ 茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022 ⇒ 【資料3】

<書類応募>

募集期間：2022年9月12日（月）～10月7日（金）

応募件数：132件（過去最多）

<最終審査>

日時：2022年11月27日（日）13時～17時

場所：茨城大学図書館3階ライブラリーホール

※関係者以外の入場は不可とし、一般観覧者に向けてオンライン配信を実施。

<最優秀賞（茨城大学長賞）>

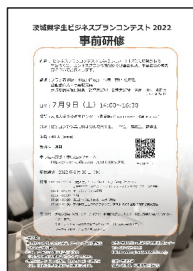
チーム：水戸農業高校 農業研究部

プラン：私たちがつくる未来のカチ第2弾 ～販売強化と農福連携の推進～



④ 茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022の関連事業



① 事前研修

開催日：7月9日（土）14:00～16:30
 方 法：対面（※後日オンデマンド配信）
 内 容：ビジネスプランの着想から企画書作成、事業収支の考え方
 講 師：（プラン着想編）Hitachifrogs 代表 菅原 広豊 氏
 （企画書作成・事業収支編）
 茨城県信用保証協会 経営支援部 創業支援課 田村 博志 氏
 対面参加者：7名
 オンデマンド配信期間：9月7日（水）～10月14日（金）
 オンデマンド配信視聴回数：20回



② 事前相談会

開催日：9月12日（月）～9月16日（金）15:00～18:00
 方 法：オンライン
 内 容：プランの作成をサポートするための個別相談
 講 師：Hitachifrogs 代表 菅原 広豊 氏
 社会連携センター講師 武田 直樹 氏
 参加者：8組



③ フォローアップ研修

開催日：12月17日（土）14:00～15:30
 方 法：オンライン
 内 容：ビジネスプランをより良いものにするためのフィードバック
 コメンテーター：社会連携センター長 中村 麻子 氏
 社会連携センター講師 武田 直樹 氏
 参加者：6組

3. 地域連携に関する主な事業

（1）各種プロジェクト及び学生の地域活動支援

①「地域研究・地域連携プロジェクト」

本学教員が、自治体等と協働し、地域課題解決を目的として進める研究や事業を支援しています。

* 令和4年度採択事業の詳細及び令和3年度までのプロジェクト報告書

(<https://www.scc.ibaraki.ac.jp/project/chiikikenkyu/>)

教員名	所属	連携先	事業名
小針 大助	農学部	日立市 かみね動物園	日立市伊師浜における鵜飼用野生ウミウの保全プロジェクト
川島 佑介	人文社会科部	石岡市ほか	茨城県自治体×茨城大学市民共創教育研究センター 円卓会議
乾 正知	理工学研究科	NPO法人 日立理科クラブ	[理数アカデミー]茨城大学特別授業
小林 薫	理工学研究科	水戸市 生活環境部 清掃事務所	廃棄物最終処分場地盤中への CO2 固定と同時に早期安定化を加速させる技術開発可能性評価プロジェクト
片口 直樹	教育学部	茨城県近代美術館	大学と美術館の協働による文化事業
杉本 妙子	人文社会科学部	茨城町役場 生涯学習課	「茨城の民俗遺産による地域活性化プロジェクト」
中田 潤 小原 規宏	人文社会科学部 人文社会科学部	クラブガストロノミー・茨城	食と地域社会との交流を題材とした地域活性化に向けた社会実験プロジェクト

瀬尾 匡輝 坂上 伸生	全学教育機構 農学部	阿見町 町民生活部 町民活動課	地域の国際化を考える
伊藤 雅一 胡 安琪 伊藤 哲司	全学教育機構 全学教育機構 人文社会科学部	水戸市 住宅政策課	水戸市飯富地区における地域資源のシェアリングを通じた地域コミュニティの編みなおし
小松崎 将一	農学部	茨城県 農林水産部 農業技術課	有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築
桑原 祐史	理工学研究科	日立市役所 市長公室 政策企画課	市民と創る未来の日立市創造のための産官学連携組織構想

②「地域支援プロジェクト（学生版）」

本学学生が、自治体等と協働して行う、地域活性化を目的とした活動を支援しています。
昨年度までは「学生地域参画プロジェクト」として公募型で実施しておりましたが、より効果的な支援を行うため、自治体等のみなさまからのご要望をもとに、社会連携センターがプロジェクトを提案する形式へと変更いたしました。

* 地域支援プロジェクト（学生版）について (<https://www.scc.ibaraki.ac.jp/project/chipro-g/>)

連携先	事業名
株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー	鹿島アントラーズ連携事業学生サポーター
大洗町役場	大洗町における多文化共生推進活動

③社会連携センターiOP活動報告会

令和4年度に社会連携センター専任教員が担当したiOP活動について、事後指導を目的とした活動報告会を開催します。
iOP活動として地域で学んだこと・活動したことを相互に報告し、さらなる展開を目指す場とします。
日時：令和5年3月13日（月）

方法：Teams

対象：社会連携センター地域支援プロジェクト（学生版）

→大洗町における多文化共生推進活動

アントレプレナーシップ型インターンシップ

「IBARAKI ドリーム・パス事業」コーチ

④学生パートナー

社会連携センターの企画・運営に関わる「学生パートナー」に、令和4年度は41名が登録しました。

また、「学生パートナー」として、以下の社会連携センター事業の運営に協力しました。

- ・茨城県学生ビジネスプランコンテスト（司会・運営補助）
- ・自治体との実務者間意見交換会（参加）
- ・その他の地域連携活動への参加

(2) 茨城大学社会人リカレント教育 ⇒ 【資料4】

茨城大学社会人向けリカレント教育」は

「公開講座・公開授業」・「専門コース」・「カスタムコース」で構成

★公開講座・公開授業・・・誰でも自由に学べる

・公開授業については、全授業開講を中止。(COVID-19 対応のため。)

・公開講座については、以下の講座を開講。(⑥は、茨城県からの委託事業)

①インプロゲームと表現

概要：インプロ（即興演劇）は今、現在の瞬間に生き、状況に柔軟に対応していく活動です。
この講座では、まず、集団場面で楽しくメンバーとかわり合いながら人間関係を形成したり、想像力や創造力を高めていくゲームを体験していきます。その上で、さまざまなシーン作りを体験しながら、人間にとって「即興」という活動が持つ意味について考えていきます。

主 催：茨城大学

開催方法：対面

講 師：正保 春彦（人文社会科学部 教授） ほか

開催日程：令和4年6月11日（土）・12日（日）

講義回数：2回

申込者数：25名（内、24名受講、キャンセル1名）



インプロゲームと表現

【講義概要】
インプロ（即興演劇）は今、現在の瞬間に生き、状況に柔軟に対応していく活動です。この講座では、まず、集団場面で楽しくメンバーとかわり合いながら人間関係を形成したり、想像力や創造力を高めていくゲームを体験していきます。その上で、さまざまなシーン作りを体験しながら、人間にとって「即興」という活動が持つ意味について考えていきます。

【日程】2022年6月11日（土）（インプロゲーム）
2022年6月12日（日）（表現）

【開講時間】10時00分～17時00分
（8時～12時00分・13時00分）

【開催場所】茨城大学社会連携センター3階研修室（水戸キャンパス）
（水戸キャンパス）

【担当講師】 講師 正保 春彦（人文社会科学部 教授）
正保 春彦（人文社会科学部 教授）

【受講料】 社会人 7,700円

【募集定員】 30名（内、24名受講、キャンセル1名）

【申込方法】 Formによる申込（締切日：6月10日 17時00分）
申し込みは以下の募集ページから申し込みをお願いします。

＜注意事項＞
※ 講座の申込と受講には、必ずしも必要ではありませんが、受講料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。

茨城大学社会連携センター
〒310-8512 茨城県水戸市水戸2丁目1番1号
電話：029-228-1411
Eメール：http://www.office.com/ibaraki/ibc
ホームページ：http://ibc.ibaraki.ac.jp

②ゼロからはじめるヤギ飼育講座－あなたも「ペーター」を目指せ！

概要：近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたい方が増えています。

本講座では、ヤギを知ってもらうための講義と実際に飼うために必要な管理技術について、実習形式で学びます。実際にヤギに触れる実習を含みます。

主 催：茨城大学

開催方法：対面

講 師：安江 健（農学部 教授）

開催日程：令和4年6月19日（日）

講義回数：1回

申込者数：10名（内、6名受講、4名キャンセル）



ゼロからはじめるヤギ飼育講座－あなたも「ペーター」を目指せ！

【講義概要】
近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたい方が増えています。本講座では、ヤギを知ってもらうための講義と実際に飼うために必要な管理技術について、実習形式で学びます。実際にヤギに触れる実習を含みます。

【日程】2022年6月19日（日） 全席大で実施します。

【開講時間】13時00分～17時00分

【開催場所】茨城大学社会連携センター3階研修室（水戸キャンパス）
（水戸キャンパス）

【担当講師】 安江 健（農学部 教授）

【受講料】 社会人、大学生、高校生 無料

【募集定員】 10名（内、6名受講、4名キャンセル）

【申込方法】 Formによる申込（締切日：6月18日 17時00分）
申し込みは以下の募集ページから申し込みをお願いします。

＜注意事項＞
※ 講座の申込と受講には、必ずしも必要ではありませんが、受講料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。

茨城大学社会連携センター
〒310-8512 茨城県水戸市水戸2丁目1番1号
電話：029-228-1411
Eメール：http://www.office.com/ibaraki/ibc
ホームページ：http://ibc.ibaraki.ac.jp

③高齢社会における成年後見制度

概要：成年後見制度とは、認知症など、高齢に伴い認知機能が低下した人をサポートする法制度をいい、

日本の成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度に分かれています。

本講座では、これらの制度がある理由・制度の概要および成年後見人役割など、基本的な事項について学びます。

主 催：茨城大学

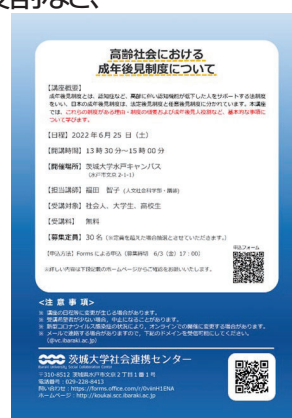
開催方法：対面

講 師：福田 智子（人文社会科学部 講師）

開講日程：令和4年6月25日（土）

講義回数：1回

申込者数：13名（内、11名受講、2名キャンセル）



高齢社会における成年後見制度について

【講義概要】
高齢社会における認知症など、高齢に伴い認知機能が低下した人をサポートする法制度をいい、日本の成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度に分かれています。本講座では、これらの制度がある理由・制度の概要および成年後見人役割など、基本的な事項について学びます。

【日程】2022年6月25日（土）

【開講時間】13時30分～15時00分

【開催場所】茨城大学水戸キャンパス
（水戸キャンパス）

【担当講師】 福田 智子（人文社会科学部 講師）

【受講料】 社会人、大学生、高校生 無料

【募集定員】 30名（内、24名受講、6名キャンセル）

【申込方法】 Formによる申込（締切日：6月24日 17時00分）
申し込みは以下の募集ページから申し込みをお願いします。

＜注意事項＞
※ 講座の申込と受講には、必ずしも必要ではありませんが、受講料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。
※ 申込後、キャンセルする場合は、必ずしも必要ではありませんが、キャンセル料を支払う必要があります。

茨城大学社会連携センター
〒310-8512 茨城県水戸市水戸2丁目1番1号
電話：029-228-1411
Eメール：http://www.office.com/ibaraki/ibc
ホームページ：http://ibc.ibaraki.ac.jp

④なるほど！日本の庭園と公園のデザイナー－歴史や文化で紐解く－

概要：日本各地には名所と呼ばれる色々な庭園や公園があります。

実は、それらのデザインには、歴史や文化が大きく影響を与えているのをご存知ですか？

本講座では、日本の代表的な庭園や公園のデザインがどう成り立っていったのかを歴史や文化の流れから楽しく、紐解きます。

主 催：茨城大学

開催方法：対面

講 師：高瀬 唯（農学部 講師）

開催日程：令和4年7月3日（日）、10日（日）

講義回数：2回

申込者数：10名（内、9名受講、1名キャンセル）



⑤心を育てるグループワーク 楽しむことから始めよう！

概要：学級集団などで実践できるグループワークについて体験的に学びます。

構成的グループ・エンカウンターやインプロなどの各種の活動を、

かかわる活動・理解する活動・表現する活動の3つに集約・再編し、心を育てるグループワークとして

提案します。これにより、人間関係を育成すると共に豊かな心を育てることができます。

体験的な演習と解説を併せて行います。

小学校から大学に至る教育機関の他各種相談機関等でも活用できます。

主 催：茨城大学

開催方法：対面

講 師：正保 春彦（人文社会科学部 教授）

開催日程：令和4年8月22日（月）、23日（火）

講義回数：2回

申込者数：15名（内、15名受講）



⑥令和4年度情報処理エンジニア育成セミナー

概要：産業の情報化が急激に進む中、高度なIT知識を持つ人材の需要は日に日に高まっています。

大学教員から専門知識を学びながら、ITエンジニアの登竜門とされる「基本情報技術者試験」の試験対策も行う充実の内容となっています。

主 催：茨城大学、茨城県

開催方法：対面及びオンライン（オンデマンド配信）

講 師：堀田 大貴（工学部 助教）（ほか）

開催期間：対面＞令和4年9月3日（土）、4日（日）、10日（土）、11日（日）

オンライン＞令和4年10月3日（月）
～令和5年1月31日（火）

講義数：4回

申込者数：対面＞28名（内、25名受講、3名キャンセル）

オンライン＞421名



⑦ゼロからはじめるヤギ飼育講座～あなたも「ペーター」を目指せ！（2回目）

概要：近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたい方が増えています。

本講座では、ヤギを知ってもらうための講義と実際に飼うために必要な管理技術について、実習形式で学びます。実際にヤギに触れる実習を含みます。

主 催：茨城大学

開催方法：対面

講 師：安江 健（農学部 教授）

開講日程：令和4年12月10日（土）

講義回数：1回

申込者数：10名（内、8名受講、2名キャンセル）



⑧企業の採用力向上講座～企業からの視点で考える大学生の採用～

概要：企業からの視点で考える「大学生採用のための講座」です。少子化の影響やコロナ禍で新卒採が困難になっています。企業説明会で「学生は何を求めているのか」、企業PRは「何を話すべきか」、自社の「何がPRポイントになるか」を考えます。オンライン採用の良い部分を活かすことも重要です。演習も含め実務的な内容で講師とともに自社でできることを考える講座です。

主 催：茨城大学

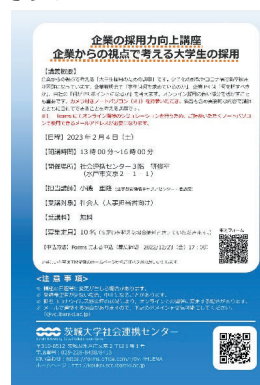
開催方法：対面

講 師：小磯 重隆（全学教育機構 准教授）

開講日程：令和5年2月4日（土）

講義回数：1回

申込者数：1名



★専門コース…専門分野のエッセンスを複数の科目を受講して学ぶ

→新規コース開設に向けて、現在検討中。

★カスタムコース…企業や自治体、団体等の要望に応じて

人財育成のプログラムをカスタマイズして提供

令和4年度前期（4月～8月）参加企業・団体別受講生数

- ・関彰商事株式会社…8名
- ・那珂市役所…1名
- ・株式会社日立ハイテク…7名（本年度前期より新規参加）

令和4年度後期（9月～2月）参加企業・団体別受講生数

- ・関彰商事株式会社…6名
- ・株式会社日立ハイテク…14名
- ・那珂市役所…2名
- ・水戸ヤクルト販売株式会社…2名
- ・茨城トヨタ自動車株式会社…9名（本年度後期より新規参加）

→令和4年度受講生合計 49名



◎ 令和3年度より、カスタムコースの受講生は、身分について学内規則を整備したことにより、オンラインやオンデマンドでの受講が認められている授業について、自宅や職場などでも授業が受けられるようになった。

◎令和4年12月13日（火）

「いばらき社会人リカレント教育懇談会」及び

「リカレント教育プログラムカスタムコース受講生交流会」の実施

・いばらき社会人リカレント教育懇談会

「社会人リカレント教育」に関する意見交換を関係団体と行い、プログラムに反映させながら進めている。

意見例：プログラム開設当初と比べて、大いに発展した。

今後のさらなる発展に期待している。

→本学対応：さらなる「提供科目の充実」を図る。



・リカレント教育プログラムカスタムコース受講生交流会

リカレント教育プログラムカスタムコースを受講する受講生同士の交流及び担当者同士の交流を図るため、懇談の場を設定した。全体を通して、活発な意見交換及び懇談となり、有意義な交流会となった。



（3）社会教育・生涯学習事業 ⇒【資料5】

社会連携センターでは全国、県内の生涯学習関係団体、県内生涯学習センター等と協力している。

・「いばらき子ども大学」への協力（共催）

大学、NPO法人、企業や市町村等の連携により、小学校4～6年生を対象に授業を展開している。

→茨城大学では、例年会場として施設貸出や講師の派遣を実施している。

本年度は、本学の日立キャンパスを会場として実施した。

（県北キャンパス：第4回目）



茨城産業会議との連携事業

・茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会の開催（10月7日（金））⇒【資料8】

『大規模災害に学ぶ これからの茨城 ～茨城の抱えるリスク 防災・減災への備え～』をテーマに連携講演会を開催しました。

会場には企業、自治体等関係者及び本学教職員・学生の85人が参加しました。

講演会では、本学大学院理工学研究科（理学野）の若月泰孝准教授、産業界の代表として東日本電信電話株式会社茨城支店設備部長の村山直之氏、茨城県から防災・危機管理部防災・危機管理課副参事の大久保孝氏が、それぞれの立場から地域で連携した防災・減災に向けた調査や具体的な取組を報告しました。

後半は三者のパネルディスカッションを行い、会場から質問のあった防災情報の伝達のためのSNSの活用方法についてや外国人居住者に対する防災に関わる課題など活発な議論が展開されました。



令和4年度「三者連携講演会」

5. 自治体・地域等との連携

（1）鹿嶋市をテーマにした地域協創PBL ⇒【資料9】

現地視察や関係者との意見交換を通して、地域振興を実践的に学んでいく授業「地域協創PBL」について、今年度は鹿嶋市をテーマに実施しました。

授業は3日間かけて行い、最終日には学修の成果をもとに作成した地域振興プランを発表しました。

（2）水戸市のまちづくりに関する施策提言 ⇒【資料10】

水戸市では、新たな都市づくりの基本となる「水戸市第7次総合計画」の策定が進められています。その一環として、未来をリードする大学生の視点からまちづくりに関する提案を行っていただきたいとの依頼がありました。提示されたテーマについて学内で検討し、以下5つのゼミが提言を行いました。

学部・学科	指導教員	テーマ
人文社会科学部 現代社会学科	田中 耕市	中心市街地活性化
人文社会科学部 現代社会学科	小原 規宏	水戸ならではの観光振興
人文社会科学部 法律経済学科	清山 玲	子育て支援の充実
人文社会科学部 法律経済学科	土屋 和子	福祉の充実
人文社会科学部 現代社会学科	原口 弥生	地球温暖化対策、循環型社会に向けた取組の促進

(3) 守谷市と大学との連携協定を締結 ⇒ 【資料 1 1】

2月2日(木)に包括連携協定を結びました。

(4) ひたちなか市と大学との連携協定を締結 ⇒ 【資料 1 2】

3月20日(月)に包括連携協定を結びました。

6. 社会連携活動の充実

点検評価

・アドバイザーボード会議を開催 ⇒ 【資料 1 3】

3月29日(水)に会議を開催しました。令和4年度の活動全般及び特色ある活動について説明ののち意見交換が行われ、ご意見・ご助言をいただきました。



茨城大学長 太田 寛行

自分のアイデアを磨き、実現するために

「14歳で起業」、ある新聞でそんな見出しの記事を目にして私は驚きました。自身が通った学校の法人を買収するに至ったその若き起業家は、自らが経験した教育に対する違和感や物足りなさをそのままにしないために起業が必要だったと語っていました。現在は大学生だという彼女はとても真っ直ぐな人だと感じました。その「起業」の心は、アントレプレナーシップという言葉で表現され、その期待は国の再興にまで及ぶようです。数年前の文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業の説明の中では、「受講者が将来の産業構造の変革を起こす意欲を持つようになる」ようなプログラムを支援するとあります。我が国あげて起業の心を育てる制度を整えてきている中、14歳の思いが、「将来の産業構造の変革」につながれば、世の中はもっと面白くなると思っています。

ところで、アントレプレナーシップに連動する言葉として、「イノベーション」がよく出てきます。「技術革新」と訳されていますが、これは「歴史的誤訳」だと、武藤泰明氏は評しています（『マネジメントの文明史 ピラミッド建設からGAFAまで』（日本経済新聞出版））。原語からすれば、「新・結合」や「組み合わせ」であり、テクノロジーに限定しているわけではないからです。その「新・結合」の類型として、新しい生産方法、新しい販路、原材料・半製品の新しい供給源、新しい組織形態が挙げられています。「新・結合」や新しい「組み合わせ」をもっと身近なことから考えれば、アイデアが生まれやすく、さらに、いろいろな人たちとのコミュニケーションを重ねることによって大きく成長するかもしれません。その仕組みが、本学の「アントレプレナーシップ教育プログラム」だと考えています。

数年前に、シンガポール国立大学を訪ねたとき、アントレプレナーシップを実践する建物を見学しました。講義室から出てきた学生たちが、一斉に、同じ建物内にある様々な企業が参画するブースに散っていく光景を見ました。おそらくアイデアの続きを語り合っていたかもしれません。学生たちはとても生き生きとした雰囲気でした。

本学の「アントレプレナーシップ教育プログラム」に参加して、ウィズ／アフター・コロナの時代で働くアイデアを一緒に育て磨きませんか！



アントレプレナーシップ 教育プログラム

夢を想像し
未来を創造する



CHECK

01

アントレプレナーシップ(起業家精神)って？

「アントレプレナーシップ」とは、私たちの生きている社会をよりよくするために、失敗を恐れずに果敢に挑戦する精神です。それは、起業家になるだけでなく、どのような道に進んだとしても求められるものです。

茨城大学で、未来の可能性を広げる力を身に付けよう！

- ☒ 新たな価値を創造するため、自分自身の意志で果敢に挑戦する精神
- ☒ 社会が大きく変革する中、失敗を恐れずにチャレンジし、たとえ失敗しても経験をバネに再チャレンジする精神
- ☒ 自ら課題を発見し、様々な立場の人と協調して解決策を考える姿勢と能力

CHECK

02 プログラムで何が身に付くの？

茨城大学では、すべての学生が卒業するまでに身に付けるべき5つの知識・能力「ディプロマ・ポリシー」を定めています。



DP1
世界の
俯瞰的理解
＜世界を見わたす＞

Diploma Policy

5つの茨城大学型基盤学力



DP2
専門分野の
学力
＜道を究める＞



DP3
課題解決能力・
コミュニケーション力
＜ともに答えを導く＞



DP4
社会人
としての姿勢
＜社会人として生きる＞



DP5
地域活性化
志向
＜地域と向き合う＞

本プログラムではさらに



プログラムで
身に付く力

いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神

1.

新たな価値を
事業化するための
基礎的知識・技能

2.

地域や企業内から新たな価値を
見出し、ビジネスによりその価値を
高めようとするマインド

3.

失敗を恐れずに
新たな価値の創出に挑戦する
行動力及び分析力

起業して「社長」になろうとする精神だけでなく、
就職先で新たな事業にチャレンジする社内起業家精神（アントレプレナーシップ）も身に付けることができます。

CHECK

04 どんな内容なの？

1年次



入門プログラム

『アントレプレナーシップ、 イントレプレナーシップってなに？』

起業家・社内起業家としての在り方の基礎を
学びます。

- ・アントレプレナーシップが必要とされる背景を学び、自分の将来像を思い描く。
- ・企業経営者等の講義を聞いて、起業・社内起業にはどんなストーリーがあったか、起業・社内起業をするためにどんな知識・技能・環境が必要なのか理解する。

1年次～2年次



基礎プログラム

『アントレプレナーシップを 身に付けよう』

実践的な知識・技能を修得します。

- ・マーケティングや統計・データサイエンスなどの科目から、自分に必要なものを選択して学び、知識・技能を修得する。
- ・ビジネスプランコンテストなどの実践的な取組を通して、企画力や課題発見・解決能力を磨く。

3年次～4年次



実践プログラム

『経営者になってみよう』

実践を通してこれまで身に付けた知識を
統合します。

- ・ベンチャー企業等でのインターンシップに参加し、経営者の思いを聴き、企画の現場を体験する。
- ・起業を疑似体験し、これまで修得したスキルを実践し、高める。

CHECK

03 プログラムの特長は？

①ホンモノに触れて力を付け、仲間と磨き合う

- ・第一線で活躍する起業家や企業経営者等を招いた授業、ベンチャー企業等でのインターンシップ、疑似起業体験などを経て、実践的な力を身に付けます。
- ・教員、企業担当者、学生同士で気軽にディスカッションできるオープンスペースを設置。アイデアをぶつけ合ってブラッシュアップできます。



②地域の人々の役に立つ

- ・地域の企業や自治体と連携したカリキュラムを構築。茨城県の魅力や取り組むべき課題について、最前線で働く人から学びます。
- ・地域社会の抱える課題を知り、ビジネスの視点で持続的な解決策を探るマインド、スキルを身に付けます。



③どの学部でも受講可能

- ・学部のカリキュラムと並行してアントレプレナーシップを学ぶことができます。
- ・他学部の学生との議論や共同作業を通して仲間を見つけ、視野を広げることができます。



修了した後は？ 社会での活躍のイメージは？

プログラムを通して身に付けた「失敗を恐れずにチャレンジする精神」、「企画力・課題解決能力」、「社会人としての基礎力」などを活かし、社会での活躍を目指します。
それぞれのステージで、「自分のやりたいこと」を実現しよう！

- ☒ 起業して経営者に
- ☒ 企業や行政機関で企画力を発揮
- ☒ ソーシャルビジネスで社会課題を解決

茨城大学アントレプレナーシップ教育プログラム 起業現場視察セミナー

2022 年
9 / 27 火
10:00～12:30

講師：三浦綾佳 氏

広島県生まれ。栄養士、日本野菜ソムリエ協会認定・野菜ソムリエプロ。アパレル会社、イベント会社を経て、2013 年、夫とともに広告代理店を起業。その後、糖度の高いトマトを作る農法・アイメックに出会い、2015 年水戸に移住し、ドロップファームを開設。

アントレプレナーの 最前線から感じてみよう！

起業した人がどのような現場で、どのような想いで活躍しているのかを直接見て、自身の将来のイメージを膨らませてみませんか？

ドロップファームとは？

2015 年に開設されたフルーツトマト栽培のみに特化した専門農場で、「ドロップファームの美容トマト®」として、水戸近郊はもとより、都内デパートでも販売しており、ブランディング成功事例として学ぶことば多い。女性が働きやすい農業を実践し、2017 年「農業の未来をつくる女性活躍経営体 100 選」に選定、2019 年「水戸市優良観光土産品」に認定されている。
「大切な人に伝えたい商品」をコンセプトに、「クリエイティブ×農業」を追及している。

日 時：2022 年 9 月 27 日（火）10:00～12:30

講 師：株式会社ドロップ 代表取締役 三浦綾佳 氏

内 容：

10:00～10:30 講演（場所：社会連携センター3F 研修室）
（起業に至る背景、マーケティング戦略など）

10:30～11:00 借上げバスによる移動

11:00～11:30 施設見学（場所：ドロップファーム）

11:30～12:00 質疑応答

12:00～12:30 帰学・解散

対 象：茨城大学生

定 員：20 名（先着順）

参加費：無料

申込み：QR コードまたは URL（申込締切：9/9（金））

<https://forms.office.com/r/P2TBHSPjCe>



- ・ 起業に興味がある！
- ・ 社会課題を解決したい！
- ・ ブランディング、マーケティングを学んでみたい！
- ・ 実際に起業した方のお話を聞いてみたい！etc…

貴重な機会ですので、
興味がある方は
是非ご参加ください♪

注意事項 … 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況により、延期・中止する場合があります。

お問い合わせ先：茨城大学社会連携センター

（TEL：029-228-8413 E-Mail：entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp）

主催：茨城大学

対象：大学生、高校生、中学生等の学生・生徒

茨城県 学生ビジネスプラン コンテスト 2022

学生のアントレプレナーシップを育むため、そして、企画力及び課題発見・解決能力の育成のため、ビジネスプランコンテストを開催します。「地域のこんな課題を解決したい」、「こういう仕事を創り上げてみたい」など、学生のみなさんのアイデアを募集します！

最優秀賞
賞金 20 万円
その他協賛企業賞 多数

募集期間 **2022 9/12 MON ~ 10/7 FRI**

- ・茨城県内で学生・生徒のみを対象とした唯一のコンテストです。
- ・応募プランについて分野を限定していません。営利に限らず、非営利のプランでも応募いただけます。
- ・事前相談会やフォローアップ研修会など、プランを審査するだけでなく、より良いものにするために手厚くサポートします。

審査は「プランの独自性・魅力」「社会へのインパクト」「プランの将来性」「実現可能性」「プレゼンテーション力（意欲・熱意等）」の5項目を採点します。書類審査により、上位8名・チームが最終審査に進出します。

最終審査
(プレゼンテーション審査)

2022 11/27 SUN

茨城大学図書館 3 階 ライブラリーホール 13:00~17:00

ホームページ：<https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/7531.html/>

お問い合わせ先：茨城大学「茨城県学生ビジネスプランコンテスト 2022」事務局
(TEL：029-228-8413、E-Mail：entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp)

主催：茨城大学

後援：茨城県、茨城県教育委員会、株式会社茨城新聞社、株式会社日刊工業新聞社

協賛：株式会社旭物産、株式会社アブリシエイト、株式会社サザコーヒー、株式会社常陽銀行、関影商事株式会社、

ダイドードリンコ株式会社、株式会社筑波銀行、東京海上日動火災保険株式会社、水戸ヤクルト販売株式会社、株式会社ユーゴー

詳細は
ホームページを
ご覧ください！



茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022 最終審査結果

賞	チーム名	所属
最優秀賞（茨城大学長賞）	水戸農業高校 農業研究部	茨城県立水戸農業高等学校
株式会社旭物産賞	僕たちの恵水物語 variety of 園芸部	茨城県立水戸農業高等学校
株式会社アプリシエイト賞	VRackbelts	茨城大学
株式会社サザコーヒー賞	Nefront	筑波大学
株式会社常陽銀行賞	Nefront	筑波大学
株式会社筑波銀行賞	高校生社長ホールディングス株式会社HIOKOプロダクツ	茨城県立常陸大宮高等学校
株式会社ユーゴー賞	高校生社長ホールディングス株式会社HIOKOアドバイザー	茨城県立常陸大宮高等学校
関彰商事株式会社賞	VRackbelts	茨城大学
ダイドードリンコ株式会社賞	水戸農業高校 農業研究部	茨城県立水戸農業高等学校
東京海上日動火災保険株式会社賞	水戸農業高校 食品化学部 カカオアンバサダー	茨城県立水戸農業高等学校
水戸ヤクルト販売株式会社賞	library制作委員会	茨城大学・法政大学
オーディエンス賞	VRackbelts	茨城大学

茨城県 学生ビジネスプラン コンテスト2022

2022年11月27日(日)
13:00~17:00

茨城大学図書館3階 ライブラリーホール
オンライン同時配信



プログラム

13:00 開会 主催者挨拶

13:10 ビジネスプランプレゼンテーション 第1部(4組)

14:05 休憩

14:15 ビジネスプランプレゼンテーション 第2部(4組)

15:10 休憩

15:20 特別講演



タイトル

「人の夢を笑うな！—アントレプレナーシップをもって踏み出そう—」

伊藤 羊一 氏 武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 学部長

プロフィール

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 学部長／Zアカデミア学長／Voicyパーソナリティ／株式会社フィラメントCIF／株式会社ウェイウェイ 代表取締役／グロービス経営大学院 客員教授
日本興業銀行、プラスを経て2015年4月よりヤフー。現在Zアカデミア学長として次世代リーダー開発を行うほか社外でもリーダー開発を行う。2021年4月に武蔵野大学アントレプレナーシップ学部(武蔵野EMC)を開設、学部長就任。代表著作「1分で話せ」。

16:10 休憩

16:20 表彰式・総評 最優秀賞(賞金20万円)、協賛企業賞、オーディエンス賞

17:00 閉会

主催：茨城大学

お問合せ先

茨城大学「茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022」事務局
TEL 029-228-8413 / Mail entre-jimu@ml.libaraki.ac.jp



茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022 最終審査進出プラン紹介

第1部 13:10~14:05

VR塾

～美しい日本の未来は、良い教育から～

チーム名 VRackbelts

所属／茨城大学

メンバー
2年 倉茂 友杜 (人文社会科学部 現代社会学科)
1年 白井 伸太郎 (工学部 情報工学科)

プラン概要

近年注目を集めているVR技術は、教育業界においても活用方法が検討されている。私たちは、「アバターを使えば、顔を出さずに参加できる」というバーチャルの魅力を活かすことで、学校に行きにくい子供たちに「勉強って楽しい」と思ってもらえるきっかけを創出する。さらに「リアルだからこそ魅力」もより鮮明にする為に、学問都市である「水戸」という土地柄と密着し、両者の魅力を有効に活かしたコンテンツを開発中である。

IBARAKI型

マインドフルネス…Healingビジネス

～“珈琲と景観”・“お風呂と座禅”で
心を癒す新たなワーケーション事業～

チーム名 高校生社長ホールディングス株式会社
HIOKOプロダクツ

所属／茨城県立常陸大宮高等学校

メンバー
3年 野上 愛
3年 杉山 美歩
1年 田中 愛芽

プラン概要

最近、仕事や生活に疲れていませんか？心に余裕がなく休まる日がない人もたくさんいると思います。今回、私たちは新たな「癒し」に重点を置いた事業プランです！提案先は「日立」！珈琲と景色で心を静め、景色の良いお風呂と座禅で心を解きほぐす。茨城の自然を満喫しながら心を癒す最高の時間と空間を提供します。

カカオアンバサダーの挑戦

～カカオの産地化が導く持続可能な社会への一歩～

チーム名 水戸農業高校 食品化学部
カカオアンバサダー

所属／茨城県立水戸農業高等学校

メンバー
3年 坂本 春花、3年 浦部 光
3年 大塚 舞波、3年 外岡 弘大
3年 中村 喬星、3年 宇田川 結生
3年 坂本 洸太

プラン概要

チョコレートを食べて幸せを感じる私たち。しかし、その背景には貧困に苦しむ多くの人を知り、カカオ農家の社会的地位向上と貧困問題解決を目的としたカカオアンバサダーを結成。カカオ豆のポテンシャルを最大限生かした商品開発と、複数の産地がブレンドされている「産地ごっちゃまぜ状態」を解消し、買い手と作り手がともに品質を評価するシステムを構築するため、カカオ豆の産地化を進める商品開発を行っている。

私たちがつくる未来のカタチ 第2弾

～販売強化と農福連携の推進～

チーム名 水戸農業高校 農業研究部

所属／茨城県立水戸農業高等学校

メンバー
3年 大和田 まゆあ、3年 横江 藍
3年 中嶋 萌葉、3年 糸賀 美衣奈
2年 玉野 笑子、2年 板橋 仁美

プラン概要

「畑で生まれる食品ロス」である規格外廃棄野菜を活用したビジネスの第2弾。昨年度は、廃棄されるイチゴを使った生パスタを開発・製造・販売。今年度は、イチゴのショートパスタや梅パスタなどを開発し販売強化を図るとともに、PDCAサイクルを回した結果みえてきた、農福連携にも挑戦。ペースト作りなどを障がいをもった方に請け負ってもらうことで、障がいの雇用の場を創出し、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す。

library(アイブラリー) 多言語対応オンライン茨城ガイド

チーム名 library制作委員会

所属／茨城大学、法政大学

メンバー
2年 田中 大貴 (茨城大学 人文社会科学部 現代社会学科)
2年 鈴木 祥剛 (法政大学 経営学部 市場経営学科)

プラン概要

茨城県の高いインバウンド需要を最大限活かすには、観光地の多言語化を充実させることが必須となる。そこで、観光地の情報やパンフレット、ガイド類を多言語で閲覧できるオンラインサービス、library(アイブラリー)を制作する。茨城を訪れた外国人旅行者を主な利用者と、観光地や自治体とも連携して多言語での情報発信を実施する。事前ダウンロードの必要がないウェブ上で、「歩きながら使える観光ガイド」としてサービスを展開する。

僕たちの恵水物語

～農業版オープンファクトリーによる
マッチングビジネス～

チーム名 僕たちの恵水物語 variety of 園芸部

所属／茨城県立水戸農業高等学校

メンバー
2年 勝山 裕生
2年 株木 良輔
2年 齋藤 聡玖

プラン概要

梨の県オリジナル品種恵水をAI自動かん水装置ゼロアグリで高品質化を、盛土式根圏制御栽培法で早期成園化を実現することで、果樹の新規就農モデルを構築しようとした際、次から次へと出てくる課題。その課題解決の参考としたのが町工場の多い地域で実施されているオープンファクトリー。そこで、農業版オープンファクトリーを実施し、異業種とのマッチングを実現することで、農業を魅力ある産業にするために考えたビジネスプラン。

令和版REAL常陸風土記!!

～常陸の国ジオキャッシング！
親子で宝探し観光～

チーム名 高校生社長ホールディングス株式会社
HIOKOアドバイザー

所属／茨城県立常陸大宮高等学校

メンバー
3年 黒澤 徳之伸
1年 李 帥

プラン概要

コロナ禍で外出があまり出来なく、小さな子供たちも思いつき外で遊ぶことが出来ない時期が長くありました。そんな方々に茨城の大自然を満喫しながら、親子で思う存分楽しめる事業を企画しました！行政や企業、地域と連携し、宝探しを通じた食や自然、アウトドアという自然資産を生かした観光事業を提案します！！

屋内ARクラウドサービス IndooAR

チーム名 Nefront

所属／筑波大学

メンバー
4年 今村 翔太 (情報学群 情報科学類)
2年 逸見 一喜 (大学院)
2年 秋山 馨 (情報学群 情報科学類)
2年 渡邊 蒼太 (情報学群 情報科学類)

プラン概要

スマホのセンサー情報を元に屋内の位置情報を特定して、指定したアイテムの場所までARで誘導するアプリケーションを、簡単に実現できるシステムを事業者向けに提供します。スーパーマーケットやドラッグストア、ショッピングモールなどの小売事業者が、自社アプリに組み込み提供することを想定。商品探しに困っている人、日本語の分からない訪日観光客や在留外国人といった方々の接客に役立つアプリケーションを目指します。

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022の特長

- 茨城県内で学生のみを対象とした唯一のコンテストです。
- 応募プランについて分野を限定していません。営利に限らず、非営利のプランでも応募いただけます。
- 事前相談会やフォローアップ研修会など、プランを審査するだけでなく、より良いものにするために手厚くサポートします。

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2022の流れ



協賛企業(五十音順)



株式会社旭物産



株式会社アプリシエイト



株式会社サザコーヒー



株式会社常陽銀行



株式会社筑波銀行



株式会社ユーゴー



関彰商事株式会社



ダイドードリンコ株式会社



東京海上日動



水戸ヤクルト販売株式会社

後援：茨城県、茨城県教育委員会、株式会社茨城新聞社、株式会社日刊工業新聞社

茨城県学生ビジネスプランコンテスト 2022

事前研修

内容：「ビジネスプランコンテストに参加したい！」「起業に興味がある！」
学生の方に、ビジネスプランの着想から企画書作成、事業収支の考え方についてお教えします。

講師：プラン着想編：Hitachifrogs 代表 菅原 広豊氏
企画書作成・事業収支編：
茨城県信用保証協会 経営支援部 創業支援課 係長 田村 博志氏
(中小企業診断士)

日時：7月9日(土) 14:00～16:30

場所：茨城大学社会連携センター 3階研修室 (後日アーカイブ視聴可能とする)

対象：ビジコンや起業に興味のある大学生、中学生、高校生、高専生

定員：40人 (先着順)

受講料：無料

申し込み方法：申し込みフォーム
<https://forms.office.com/r/dR2bKSJ0NC>



申込 QR コード

応募締切：2022年6月30日(木)

詳細：14:00～14:10 茨城大学アントレプレナーシップ教育プログラム、
茨城県学生ビジネスプランコンテスト 2022 を含むビジコンの説明
14:10～15:10 第一部：プラン着想編
15:10～15:20 休憩
15:20～16:20 第二部：企画書作成・事業収支編
16:20～16:30 茨城県学生ビジネスプランコンテスト 2022 全般に関する質疑応答

その他：講義の様子は録画してアーカイブを一定期間配信しますので、当日ご都合が悪い方も参加いただけます。
なお、アーカイブ配信を視聴するためにも、申し込みが必要です。
アーカイブ配信に定員はございません。

注意事項：

- *申し込みいただいた方は全員、アーカイブ配信を視聴することが出来ます。
- *当日、会場での参加を希望する方は、申し込みの際に参加希望を選択してください。
- *新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の状況により、開催方法等を変更する場合があります。

お問い合わせ先：茨城大学社会連携センター
Tel : 029-228-8413
E-Mail : entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp

主催：茨城大学
後援：茨城県、茨城県教育委員会

茨城県 学生ビジネスプラン コンテスト2022

事

専門家があなたのプランの作成を
サポートするため、事前相談会を実施いたします。
※ご好評により、締切を延長しました。

前

日 時

9月12日(月)～16日(金)
15:00～18:00の間 事前予約制
(※1組30分程度)

相

方 法

オンライン(zoom)による個別相談

談

予約方法

Microsoft Formsによる事前予約

Forms
QRコード:



Forms URL:
<https://forms.office.com/r/BhDeRsTmZk>

9/7
(水)
締切

※ご希望いただいた日程に沿えない可能性もございます。
その際は、改めて個別に日程調整をさせていただきます。

会

問合せ先

茨城県学生
ビジネスプランコンテスト2022事務局
(茨城大学社会連携センター)

☎ 029-228-8413 / 8438
✉ entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp

HP <https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/7531.html/>

お気軽に
ご連絡
ください

イベントページ



A photograph of a wooden desk in a bright, modern interior. On the desk is a silver laptop, a small spiral notebook, and a pen. In the background, there are wooden shelves, a potted plant, and a window. Overlaid on the image is large Japanese text: 'ビジネスプランコンテスト 2022' in blue and 'ーアップ研修' in white with a blue outline. A blue circular graphic is in the bottom left corner.

ビジネスプランコンテスト 2022

ーアップ研修

2022
12/17 Sat
14:00~16:00

みなさまのビジネスプランをより良いものとするために
フォローアップ研修を行います。是非ご参加ください！

-



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

〈HP QR コード〉

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。



インプロゲームと表現

【講座概要】

インプロ（即興演劇）は今、現在の瞬間に生き、状況に柔軟に対応していく活動です。
この講座では、まず、集団場面で楽しくメンバーとかわり合いながら人間関係を形成したり、想像力や創造力を高めていくゲームを体験していきます。その上で、さまざまなシーン作りを体験しながら、人間にとって「即興」という活動が持つ意味について考えていきます。

【日程】（初回） 2022 年 6 月 11 日（土）（インプロゲーム）
（2回目） 2022 年 6 月 12 日（日）（表現）

【開講時間】 10 時 00 分～17 時 00 分
（休憩：12 時 00 分～13 時 00 分）

【開催場所】 茨城大学社会連携センター 3 階研修室（水戸キャンパス）
（水戸市文京 2-1-1）

【担当講師】 絹川 友梨 氏（桜美林大学）
正保 春彦（人文社会科学部・教授）

【受講対象】 社会人

【受講料】 7,700 円

【募集定員】 30 名 ※開講可能人数：15 名

【申込方法】 Forms による申込（募集締切 5/20（金）17：00）

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をお願いいたします。

申込フォーム



<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
（@vc.ibaraki.ac.jp）



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号：029-228-8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。

<HP QR コード>



ゼロからはじめるヤギ飼育講座 —あなたも「ペーター」を目指せ！

【講義概要】

近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたい方が増えています。本講座では、ヤギを知ってもらうための講義と実際に飼うために必要な管理技術について、実習形式で学びます。実際にヤギに触れる実習を含みますので、受講者は最大 10 名までとさせていただきます。ともに、汚れても良い服装、長靴、作業用手袋（軍手）およびマスク着用でご参加ください。なお、過去開講分と同じ内容ですので、以前の参加者はご遠慮ください。

【日程】2022 年 6 月 19 日（日）※雨天でも実施します

【開講時間】13 時 00 分～17 時 00 分

【開催場所】農学部国際 FS センター内講義室およびヤギ飼育場
(稲敷郡阿見町中央 3-21-1)

【担当講師】安江 健（農学部・教授）

【受講対象】社会人、大学生、高校生

【受講料】無料

【募集定員】10 名（※定員を超えた場合抽選とさせていただきます。）

【申込方法】Forms による申込（募集締切 6/10（金）17:00）

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をおねがいいたします。

ヤギ飼育講座開催場所&駐車場のご案内
茨城大学農学部(阿見キャンパス)



申込フォーム



<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
(@vc.ibaraki.ac.jp)

 茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号：029-228-8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

〈HP QR コード〉

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。



高齢社会における 成年後見制度について

【講座概要】

成年後見制度とは、認知症など、高齢に伴い認知機能が低下した人をサポートする法制度をいい、日本の成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度に分かれています。本講座では、**これらの制度がある理由・制度の概要および成年後見人役割など、基本的な事項について学びます。**

【日程】 2022 年 6 月 25 日（土）

【開講時間】 13 時 30 分～15 時 00 分

【開催場所】 茨城大学水戸キャンパス
(水戸市文京 2-1-1)

【担当講師】 福田 智子 (人文社会科学部・講師)

【受講対象】 社会人、大学生、高校生

【受講料】 無料

【募集定員】 30 名 (※定員を超えた場合抽選とさせていただきます。)

【申込方法】 Forms による申込 (募集締切 6/3 (金) 17 : 00)

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をお願いいたします。

申込フォーム



<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
(@vc.ibaraki.ac.jp)



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号 : 029-228-8413

問い合わせ : <https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

ホームページ : <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

<HP QR コード>



※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。

なるほど！日本の庭園と公園のデザイン ー歴史や文化で紐解くー

【講座概要】

日本各地には名所と呼ばれる色々な庭園や公園があります。実は、それらのデザインには、歴史や文化が大きく影響を与えているのをご存知ですか？本講座では、日本の代表的な庭園や公園のデザインがどう成り立っていったのかを歴史や文化の流れから楽しく、紐解きます。

【日程】（初回） 2022 年 7 月 3 日（日）
（2回目） 2022 年 7 月 10 日（日）

【開講時間】 10 時 30 分～12 時 00 分

【開催場所】 茨城大学社会連携センター 3 階研修室（水戸キャンパス）
（水戸市文京 2-1-1）

【担当講師】 高瀬 唯（農学部・講師）

【受講対象】 社会人、大学生、高校生

【受講料】 5,500 円

【募集定員】 20 名（※開講可能人数：5 名）
（※定員を超えた場合抽選とさせていただきます。）

【申込方法】 Forms による申込（募集締切 6/17（金）17:00）

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をおねがいいたします。

申込フォーム



<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
（@vc.ibaraki.ac.jp）



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号：029-228-8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

〈HP QR コード〉

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。



心を育てるグループワーク 楽しむことから始めよう！

【講座概要】

学級集団などで実践できるグループワークについて体験的に学びます。構成的グループ・エンカウンターやインプロなどの各種の活動を、かかわる活動・理解する活動・表現する活動の3つに集約・再編し、心を育てるグループワークとして提案します。これにより、人間関係を育成すると共に豊かな心を育てることができます。体験的な演習と解説を併せて行います。小学校から大学に至る教育機関の他各種相談機関等でも活用できます。

【日程】 (初回) 2022年8月22日(月)
(2回目) 2022年8月23日(火)

【開講時間】 10時00分～17時00分
(休憩：12時00分～13時00分)

【開催場所】 茨城大学社会連携センター 3階研修室 (水戸キャンパス)
(水戸市文京2-1-1)

【担当講師】 正保 春彦 (人文社会科学部・教授)

【受講対象】 教員、施設等関係者、相談関係者
(※それ以外の方はご相談ください)

【受講料】 7,700円

【募集定員】 30名 ※開講可能人数：10名

【申込方法】 Formsによる申込 (募集締切 7/29(金) 17:00)

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をおねがいいたします。

申込フォーム



<注意事項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
(@vc.ibaraki.ac.jp)



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京2丁目1番1号

電話番号：029-228-8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



令和4年度

情報処理 エンジニア 育成セミナー

開催方法

対面またはオンライン選択制

(※対面とオンライン両方お申込みいただくことも可能です。)

開催日時

【対面】 令和4年
9/3(土) 4(日) 10(土) 11(日)
10:00~16:00

【オンライン】 令和4年 令和5年
10/3(月) ~ 1/31(火)

受講場所

【対面】 茨城県水戸市文京 2-1-1
茨城大学社会連携センター 3階研修室
【オンライン】 ご自宅等で受講いただけます。

対象

「基本情報技術者試験」の受験を考えている方は誰でも
歓迎いたします！

- IT知識を学んでいて、さらに力を伸ばしたい方
- 試験対策だけにとどまらず、理論や学術的な内容を学びたい方
- IT企業を志望する学生や、IT企業にお勤めの若手社員の方 など…

注意事項

※オンライン開催の内容は、対面開催と同様の内容となります。対面開催とオンライン開催のどちらにも参加される場合、申込フォーム（URL）が異なりますので、両方への申し込みが必要となります。

※本学の来客用駐車場には限りがございます。対面開催に参加される方は、公共交通機関や近隣の有料駐車場をご利用ください。

※対面開催に参加される場合、昼食は各自で用意ください。

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況により、開催方法等を変更する場合があります。

※お申込みいただいた際のメールアドレス宛に、茨城大学と茨城県から後日アンケート等を送付する予定ですので、あらかじめご承知おきください。

産業の情報化が急激に進む中、高度なIT知識を持つ人材の需要は日に日に高まっています。

茨城大学では、茨城県と連携して情報処理エンジニアを育成するセミナーを開催いたします。

大学教員から専門知識を学びながら、ITエンジニアの登竜門とされる「基本情報技術者試験」の試験対策も行う、充実の内容となっています。

定員

対面	オンライン
40名 (先着順)	500名 (先着順)

受講料

無料

申込方法

QRコードからお申し込みください



【対面】→



【オンライン】→



【対面】
<https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/kouza/joho2022-1>
【オンライン】
<https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/kouza/joho2022-2>

応募締切

【対面】 令和4年 8月26日(金)
【オンライン】 令和4年 11月30日(水)

※定員になり次第、締切とさせていただきます。

問合せ先

茨城大学社会連携センター
☎029-228-8413

受講推奨レベル

疑似言語について、基礎的な知識を身に付けていること。
具体的には、以下のような記述形式を理解できる程度の知識を推奨します。

【宣言、注釈及び処理】

記述形式	説明
○	手続、変数などの名前、型などを宣言する。
/* 文 */	文に注釈を記述する。
・変数 ← 式	変数に式の値を代入する。
・手続 (引数, ...)	手続を呼び出し、引数を受け渡す。
↑ 条件式 ↓ 処理	単岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理を実行する。
↑ 条件式 ↓ 処理1 ↓ 処理2	双岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理1を実行し、 偽のときは処理2を実行する。
↑ 条件式 ↓ 条件式 ↓ 処理	前判定繰返し処理を示す。 条件式が真の間、処理を繰り返し 実行する。
↑ 処理 ↓ 条件式 ↓ 処理	後判定繰返し処理を示す。 処理を実行し、条件式が真の間、 処理を繰り返し実行する。
変数：初期値, 条件式, 増分 ↓ 処理	繰返し処理を示す。 開始時点で変数に初期値(式で与えら れる)が格納され、条件式が真の間、処 理を繰り返す。 また、繰り返すごとに、変数に増分(式 で与えられる)を加える。

【演算子と優先順位】

演算の種類	演算子	優先順位
単項演算	+, -, not	高 ↑ ↓ 低
乗除演算	×, ÷, %	
加減演算	+, -	
関係演算	>, <, ≥, ≤, =, ≠	
論理積	and	
論理和	or	

注記) 整数同士の徐算では、整数の商を結果として返す。
%演算子は、剰余算を表す。

【論理型の定数】 true, false



出典) 令和元年度 秋期 基本情報技術者試験 午後 問題

講義概要

※1 ()内は対面
開催の場合の
スケジュール

(午前の部)【理論編】 (10:00 ~ 12:00) 茨城大学工学部情報工学科 堀田大貴 助教
(休憩) (12:00 ~ 13:00)
(午後の部)【問題演習編】 (13:00 ~ 16:00) 茨城県立産業技術短期大学校 教員

講義内容

※2 日付は対面開催の開催日、【第○回】はオンライン開催の動画のナンバリング

9月3日土

【第1回】 文字列検索 アルゴリズム

【理論編】

ナイーブ法、Bitap 法、KMP 法、BM 法等の講義
文字列探索とはある文字列と調
べたいパターンが与えられたと
きに、文字列中に出現するパ
ターンの位置を出力するアルゴ
リズムです。本講義では、この
文字列探索アルゴリズムとし
て、力任せですが分かりやすい
ナイーブ法、文字の位置をスキ
ップして比較回数を減らす
KMP 法と BM 法、あいまい検索
にも利用可能なビット演算を用
いた Bitap 法などを紹介します。

問題演習編

2019 (秋) 問題 8
(Bitap 法)
2015 (秋) 問題 8
(BM 法)

9月4日日

【第2回】 文字列圧縮 アルゴリズム

【理論編】

ランレングス圧縮、ハフマン符
号圧縮等の講義
ネットワークを介して大量の
データをやり取りするとき、通
信量や記憶容量を低減するた
めに、データ圧縮・伸長技術が使
われています。本講義では、デー
タ圧縮のための符号理論を紹介
します。代表的な符号化の方法
であるシャノン・ファノ符号や
ハフマン符号、FAX で使われる
符号化方法であるランレングス
符号を紹介します。

【問題演習編】

2019 (春) 問題 8
(ハフマン符号圧縮)
2013 (秋) 問題 8
(独自圧縮アルゴリズム)

9月10日土

【第3回】 ソートアルゴリズム (基本編)

【理論編】

各種ソートに関する講義
ソートとは、データが与えられ
たときに、大小関係の順序にし
たがって並び替えた結果を出力
することです。このソートは情
報処理におけるデータ分析の基
本で、試験の結果を並び替えて
合格者を出す場合や住所録の
データを名前順に整列する場合
に行われます。本講義では、数
多くあるソートアルゴリズムの
中から、比較的分かりやすい選
択ソート、挿入ソートとバブル
ソートと木構造を使って並び替
えを行うヒープソートを紹介し
ます。

【問題演習編】

2007 (春) 問題 4
(挿入ソート)
2018 (春) 問題 8
(ヒープソート)

9月11日日

【第4回】 ソートアルゴリズム (応用編)

【理論編】

情報処理エンジニアに必要な
なるその他アルゴリズムに関する
講義
今回はソートアルゴリズムの中
から、マージソートとクイック
ソートを紹介します。マージソ
ートはデータを細かく分割し、並
び替えを繰り返し行いながらマ
ージ(併合)してソートを行
います。クイックソートはデー
タから基準値を定めて大きいグ
ループと小さいグループに分け
て並び替えを行います。前回紹
介したアルゴリズムと処理速度
を比較することで、これらの方
法が高速だと実感できます。

【問題演習編】

2010 (春) 問題 8
(マージソート)
2015 (春) 問題 8
(クイックソート)

受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。

<HP QR コード>



ゼロからはじめるヤギ飼育講座 —あなたも「ペーター」を目指せ！

【講義概要】

近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたい方が増えています。本講座では、ヤギを知ってもらうための講義と実際に飼うために必要な管理技術について、実習形式で学びます。実際にヤギに触れる実習を含みますので、受講者は最大 10 名までとさせていただきます。汚れても良い服装、長靴、作業用手袋（軍手）およびマスク着用でご参加ください。なお、過去開講分と同じ内容ですので、以前の参加者はご遠慮ください。

【日程】2022 年 12 月 10 日（土）※雨天でも実施します

【開講時間】13 時 00 分～17 時 00 分

【開催場所】農学部国際 FS センター内講義室およびヤギ飼育場
(稲敷郡阿見町阿見 4668-1)

【担当講師】安江 健（農学部・教授）

【受講対象】社会人、大学生、高校生

【受講料】無料

【募集定員】10 名（※先着順。）

【申込方法】Forms による申込（募集締切 12/2（金）17:00）
※満員になり次第、締め切らせていただきます。

※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をおねがいいたします。

ヤギ飼育講座開催場所&駐車場のご案内
茨城大学農学部（阿見キャンパス）



申込フォーム



<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
(@vc.ibaraki.ac.jp)

 茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号：029-228-8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



受講生募集

リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1

公開講座に応募

(Web からお申し込みいただけます)

- ・応募は先着順です。
受講不可となった場合のみ
ご連絡を差し上げます。
- ・申込期限までにご連絡がない
場合、受講決定となります。

2

初回開講日約 1 週間前に
大学から応募者に受講証と講習
料振込依頼書を郵送します。

(無料講座は受講証のみ)

- ・応募者が少ない場合、
中止になる場合があります。
その場合、応募された方へ別途
ご連絡差し上げます。
- ・受講証が受講日 3 日前までに
届かない場合はご連絡ください。

3

受講料をお支払いいただき、
講座を受講してください。

- ・最寄りの金融機関窓口で納付して
ください。
- ・振込時の振込手数料は、振込人
負担となります。
- ・郵便局ではお取り扱いできません
のでご注意ください。

 茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8438/8413

問い合わせ

<https://forms.office.com/r/0viinH1ENA>

<お申し込み方法>

ホームページ <http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp>

お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込み下さい

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持参での受付は行っておりません。
また、電話での受付も行っておりません。

<HP QR コード>



企業の採用力向上講座

企業からの視点で考える大学生の採用

【講義概要】

企業からの視点で考える「大学生採用のための講座」です。少子化の影響やコロナ禍で新卒採用が困難になっています。企業説明会で「学生は何を求めているのか」、企業 PR は「何を話すべきか」、自社の「何が PR ポイントになるか」を考えます。オンライン採用の良い部分を活かすことも重要です。カメラ付きノートパソコン（※1）を持参いただき、演習も含め実務的な内容で講師とともに自社でできることを考える講座です。

※1 Teams にてオンライン面接のシミュレーションを行うため、ご持参いただくノートパソコンで利用できるメールアドレスが必要になります。

【日程】2023 年 2 月 4 日（土）

【開講時間】13 時 00 分～16 時 00 分

【開催場所】社会連携センター 3 階 研修室
（水戸市文京 2 - 1 - 1）

【担当講師】小磯 重隆（全学教育機構キャリアセンター・准教授）

【受講対象】社会人（人事担当者向け）

【受講料】 無料

【募集定員】10 名（※定員を超えた場合抽選とさせていただきます。）

【申込方法】Forms による申込（募集締切 2022/12/23（金）17：00）

申込フォーム



※詳しい内容は下段記載のホームページからご確認をおねがいいたします。

<注 意 事 項>

- ※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
- ※ 受講希望者が少ない場合、中止になることがあります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインでの開催に変更する場合があります。
- ※ メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
（@vc.ibaraki.ac.jp）



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号

電話番号：029-228-8438/8413

問い合わせ：https://forms.office.com/r/0viinH1ENA

ホームページ：http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp



令和4年12月19日
社会連携課

令和4年度いばらき社会人リカレント教育懇談会（実務担当者会議）
実施報告

日 時：令和4年12月13日（火）13：30～15：00

場 所：水戸京成ホテル 2F 瑠璃の間

出席者：別添名簿のとおり

概 要：

【司会】中田副センター長

【開会挨拶】世話人 久留主理事・副学長

【出席者紹介】中田副センター長

【①事例報告】茨城トヨタ自動車株式会社様

【質疑】質問・感想＝カスタムコース参加企業・団体担当者、自治体担当者、回答＝茨城トヨタ自動車株式会社ご担当者様

・（感想）人財育成に力を入れていることが凄いと感じた。

・（質問）リカレント教育に対して経営層や人事担当者は前向きである。しかし職場の管理職の中には理解してくれない方もいる。理解のある管理職を育てるにはどのようにすればよいと思うか。

（回答）やはり一定数リカレント教育に反対の人がいるが、同じ考えの人に引っ張って行ってもらおう。できている人を育てていくという風土がある。

・（質問）リカレント教育プログラムで学んだ内容はどのような科目か。

（回答）サービス業なので、サービスマネジメント系の科目が多かった。労働法やアントレプレナーシップの科目を学ぶ方もいた。

・（質問）①学んでいる曜日はいつか。②学んでいる人への評価システムはあるのか。

（回答）①1人気を利かせて会社の定休日に受講している方がいる。他の方は営業時間中に会議室を予約してオンライン授業を受けたりしている。②評価については、現状ない。今後の課題である。

・（質問）①受講者は希望通りの科目を学べたのか。②科目は与えられた科目群の中から選択する形式なのか。

(回答) ①ほぼ第一希望の科目を学んでいる。②その通り。

・(質問) 行政でリカレント教育を検討してく中で、職員たちのスキルアップを考えているが、税金の使い方という点で、スキルアップにお金を使うという部分で説明がしづらい。どうしても成果に目が行ってしまうため、リカレント教育を受講することによって目に見えての効果があれば教えて欲しい。

(回答) アントレプレナーシップ入門という科目を受講することによって、人脈の広がりからビジネスにつながれるという期待と、変化が多いこの世の中で現状維持は衰退であるということを学んだ。そのため、まだ学んでいる途中のため結果は出ていないが、自分自身が積極的になるようになった。故に、リカレント教育は人財のスキルアップといった企業に対する恩恵が充分にあると思う。

【②協議】

進行：中村センター長

報告：中村センター長、桐原講師、柳河 CD

R4 年度リカレント教育の実施状況・次年度の目標・R4 年度受講者面談の結果等について報告。

【質疑】 質問・感想・要望＝参加企業・団体担当者・自治体担当者，回答＝茨城大学

・(要望) 専門コース開設を楽しみにしている。専門コースはカスタムコースに比べてより深く学べるというイメージを持っている。学生、企業、行政、地域住民を交えたゼミ形式の授業を期待している。

(回答) 茨城大学でしか学べない専門コースを立ち上げたい。受講生面談などでも要望があるので、それにこたえられるようなプログラムを提供したい。

・(要望) 自治体と学生が同じ立場に立って1つのテーマについて話し合っていけるゼミ形式のような授業を期待している。行政はどうしても職場移動があるので1つの専門性を極めるというのが難しい。そこで、ゼミ形式で知見を広げて専門性を高められるような授業を希望する。

・(感想) カスタムコースが始まった当初と現在とでは体制が全然違う。企業、行政、大学の三者が考えて現在の体制になっていると思う。専門コースをどうするかというようなことは当初では全然想像できなかった。オンライン授業については最初味気なく感じたが、会社での役職が上がるととても便利に感じるようになった。勿論、対面授業もよいところがある。さらにもう1つ何かできるのではないかという期待もある。今後は授業数も増えていき、受講者もどんどん増えていくと思うので、これからの発展をとっても期待している。

【閉会挨拶】 鳥羽田理事

以上



令和4年度いばらき社会人リカレント教育懇談会出席者名簿		
		(順不同・敬称略)
団体名	役職	氏名
セキショウショウジ 関彰商事株式会社	ヒューマンケア部部长	渡邊 誠
	ヒューマンケア部ウェルビーイング課主任	宇留野 裕和
茨城トヨタ自動車株式会社	総務部 部長	矢代 裕一
	総務部人事グループ 主任	吉田 麻美
茨城県	政策企画部計画推進課 副参事	鈴木 威
	政策企画部計画推進課 主任	江面 友彦
茨城県教育庁	総務企画部生涯学習課 課長補佐	田山 善堂
水戸市	市長公室政策企画課政策審議室 主事	川野辺 俊
	総務部人事課人材育成係長	川崎 健生
阿見町	町長公室政策企画課主任	高村 暢也
株式会社サザコーヒー	店舗事業部課長	飯島 侑也
ダイドードリンコ株式会社	首都圏第二営業部つくばオフィス 課長	松崎 貴志
茨城大学	理事・副学長（総括理事・教育）	久留主 泰朗
	理事（社会連携・基金運営）	鳥羽田 英夫
	学長特別補佐（社会連携） 兼 社会連携センター長	中村 麻子
	社会連携センター副センター長	中田 潤
	社会連携センター講師	桐原 武文
	研究・社会連携部長	川島 美奈子
	社会連携センターコーディネーター	柳河 加奈子
	研究・社会連携部社会連携課長	矢内 結香
	研究・社会連携部社会連携課社会教育グループ	岡本 美咲
	研究・社会連携部社会連携課社会教育グループ	佐藤 杏祐

※参加者 22 名：学外者 12 名、学内者 10 名（参加予定者 23 名、当日欠席 1 名）

令和4年12月20日
社会連携課

「令和4年度リカレント教育プログラムカスタムコース受講生交流会」実施報告書

【概要】

○目的

リカレント教育プログラムカスタムコースを受講する受講生同士の交流及び担当者同士の交流を図るため、懇談の場を設定した。

○日時・場所

- ・日時：令和4年12月13日（火） 15時15分～16時45分
- ・場所：水戸京成ホテル 2F 瑠璃の間

○対象

令和4年度受講生、令和5年度受講希望者、リカレント教育プログラム担当者

【次第】

時間	内容
15:15	開会 開会あいさつ（社会連携センター センター長 中村麻子） 全体の流れについての説明
15:30	懇談①（30分）
16:00	休憩（10分）
16:10	懇談②（30分）
16:45	閉会

【報告】

本交流会では、受講生グループを3つ、担当者グループを1つ設け、学内者もファシリテーターやオブザーバーとして、グループに参加し、意見交換及び懇談を行った。

受講生からは、「楽しく学んでいる」、「授業内のワークショップで学生と交流が出来ていて、刺激を受けている」、「同僚等にも勧めたい」等の受講に対して好意的な感想が寄せられた。かつ、「日立キャンパスにも控室が欲しい」、「科目の体系やレベルが一覧で分かると科目が選びやすい」等の本学への要望も本交流会で聞くことができた。

また、担当者からは、「シラバスを見てミスマッチが起きないように、推奨科目等を助言してほしい」、「受講生同士で関係が深められる社会人サークルがあると良い」等の要望などもいただいた。

全体を通して、活発な意見交換及び懇談となり、有意義な交流会となった。また、懇談会

と続けての開催とすることで、担当者の参加も増えたことも有意義な交流会となった一因と考える。本交流会で聞き取りしたニーズについては、今後のカスタムコース運営において、活用していきたい。

【参加者の声（抜粋）】

○受講生テーブル＊A, B, C

- ・学んだことを改めて学び直せる、繰り返し学べることがうれしい。
- ・学生とのワークショップは刺激を貰えるが、社会人の意見も聞きたかったので、社会人受講生と一緒にいたらよかった。
- ・楽しく学んでいる。もっと参加したい。自分が学ぶ（＝仕事から一時抜ける）ことによって、周囲の社員も興味を持ってくれている。勧めている。
- ・日立キャンパス受講だが、日立キャンパスにも、控室的な部屋があると嬉しい。
- ・科目毎に体系・レベル（基礎 or 応用）が科目一覧で分かると、選びやすい。
- ・課題をやっているが、教員から評価がもらえない。リカレント受講生は成績付与されなくてもやったことに対するコメントなどが欲しい。課題をやることで気づきが得られるので課題をやっている。

○担当者テーブル

- ・リカレント教育を受講するなど、やる気のある職員を評価する仕組みがない。現在、模索している段階。
- ・リカレント教育の受講生同士で、関係が深められる社会人サークルがあったらいい。
- ・知識のみでなくマインドも学ばせたい。
- ・シラバスを見てミスマッチが起きないように、推奨科目等を助言してもらいたい。

【参加者名簿】

令和4年度リカレント教育プログラムカスタムコース受講生交流会 名簿

No.	グループ	所属	種別	氏名
1	A	株式会社日立ハイテク	後期受講生	吉川 恵
2	A	那珂市役所	後期受講生	鈴木 伸一
3	B	関彰商事株式会社	前期受講生	佐藤 泰成
4	B	関彰商事株式会社	前期受講生	小木 紘樹
5	B	株式会社日立ハイテク	後期受講生	山田 菜穂子
6	B	株式会社日立ハイテク	前期受講生	福永 文彦
7	C	株式会社日立ハイテク	前・後期受講生	加藤 茂彦
8	C	株式会社日立ハイテク	前・後期受講生	前田 規子
9	C	関彰商事株式会社	後期受講生	高橋 塁
10	D	関彰商事株式会社	担当者	宇留野 裕和
11	D	茨城トヨタ自動車株式会社	担当者	矢代 裕一
12	D	茨城トヨタ自動車株式会社	担当者	吉田 麻美
13	C	茨城大学	進行役	久留主 泰朗
14	B		進行役	鳥羽田 英夫
15	A		進行役	中村 麻子
16	C		進行役	中田 潤
17	B		進行役	桐原 武文
18	D		進行役	川島 美奈子
19	D		進行役	矢内 結香
20	D		進行役	柳河 加奈子
21			運営	岡本 美咲
22			運営	佐藤 杏祐

※参加者 22 名：学外者 12 名、学内者 10 名（参加予定者 24 名、当日欠席 2 名）

※学外者 12 名の内訳：令和4年度受講生 9 名、リカレント教育プログラム担当者 3 名

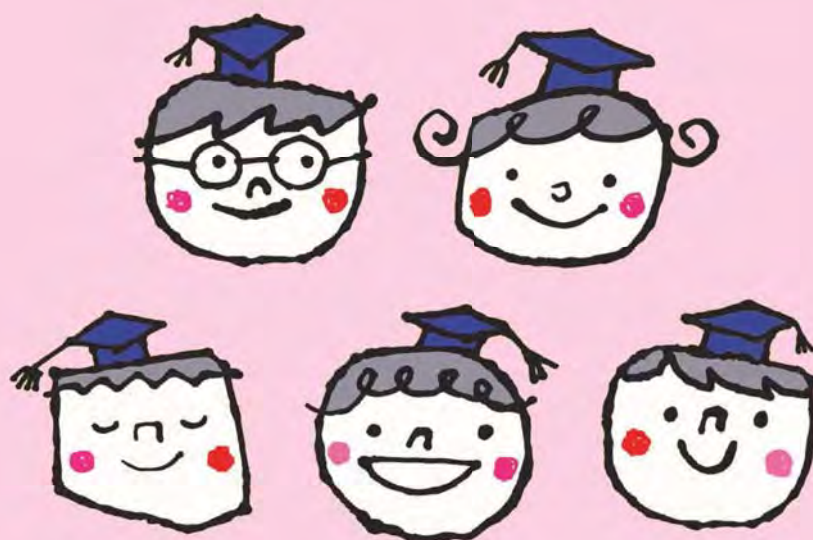
【交流会の様子】



2022年（第8期生）

いばらき子ども大学

ibaraki kinder-university



県北キャンパス



Facebookもチェック

いばらき子ども大学

検索



小学4・5・6年生の 「子ども大学生」募集中!!

なぜ？ どうして？ を教えてくれるのは、大学の先生やプロフェッショナルな専門家です。

学校や学年に関係なく、小学校では学べないたくさんの体験・学習ができます。

子ども大学とは・・・？

茨城県教育委員会・大学・県内NPO法人・企業や市町村等と実行委員会を組織し、県内全域の小学校4年生から6年生を対象に、子どもたちの好奇心に応え、知的な世界を開くため、大学の先生や専門家が学校では学べない分野をわかりやすくかつ体系的に教える機会と場を提供するものです。

茨城県内各地域にキャンパスを設置し、学校の枠を超え、たくさんの仲間との出会い、たくさんの知識を学ぶ機会を与えます！

新型コロナウイルス感染症及び天候等の事情により、授業内容・日程の変更、または中止となることがあります。

詳細は裏面問い合わせ先までご連絡ください。

1回目

開校式&弁護士の仕事

——法律は誰のためにあるのか？

法律は誰が作っているのでしょうか？ 法律を使って仕事をしているのはどういう人たちでしょう？ 一度できた法律を変えることはできるのでしょうか？ この授業ではこのようなことを考えながら、教材を使ったワークショップを行ってみたいと思います。



8月27日(土) 13:30～16:00

会場：茨城キリスト教大学

講師：弁護士 林 陽子 先生



2回目

雲と空の楽しみ方

何気なく空に浮かぶ雲や毎日変わる空模様は、私たちの手の届かない遠い存在のように感じますが、実はとても身近で面白いことがたくさんあるんです。そんな雲や空のヒミツや不思議を探ってみましょう！



10月23日(日) 13:30～15:30

会場：常陸太田市交流センターふじ

講師：気象予報士 佐々木 恭子 先生



3回目

シーラカンスも迷惑している
海のプラスチックごみ問題

4億年前から地球上に現れたシーラカンス。今でも2種類が生き残っています。しかし、現代のシーラカンスは、大昔にはなかったプラスチックごみの被害にあっています。シーラカンスをおびやかす海のプラスチックごみ問題について考えてみましょう。



11月13日(日) 10:00～12:00

会場：アクアマリンふくしま (保護者家族は入館料がかかります)

講師：アクアマリンふくしま 岩田 雅光 先生



4回目

古生物の研究入門

化石は動物の骨格などが堆積物に埋まって石になったものです。完全な骨格が見つかることはあまりなく、部分的な骨のパーツが見つければ運がいいほどです。古生物学では、そのような骨のパーツから手がかりをえて、その動物がどんな生き物であったのか、何を食べていたのか、どんな環境に暮らしていたのか考える学問です。古生物学者の謎解きをやってみましょう。



12月11日(日) 13:30～15:30

会場：茨城大学工学部

講師：国立科学博物館 木村 由莉 先生

5回目

共に生きるーオリジナルパスポートを持って、
留学生の国を訪問しよう！ー & 開校式

みなさんはこれから外国に行き、また、外国から来た多くの友人や同僚、パートナーに出会うことでしょう。これからの時代は、多文化協働(出身国や文化の異なる人々と共に暮らし働く)の知識・スキルが必要です。この授業では、身近な例をもとに多文化協働について考えます。



2023年 1月21日(土) 13:30～16:00

会場：茨城キリスト教大学

講師：茨城キリスト教大学 岩間 信之 先生

問い合わせ先

いばらき子ども大学
県北キャンパス事務局

県北生涯学習センター内

〒319-1304 日立市十王町友部2581

TEL: 0294-39-0012

FAX: 0294-39-0121

E-MAIL: kodomo-d@impact.or.jp



1 募集締切

2022年 7月20日(水)

2 募集対象

小学4年生～小学6年生

3 募集人数

60名(応募者多数の場合は抽選となります)

4 参加費

8,000円(保険代・5回分授業料等)

5 応募方法

メールにて下記内容を入力の上、事務局までお申し込みください。

★兄弟・姉妹の連名可

①氏名(ふりがな) ②性別 ③学校名・学年 ④保護者名

⑤郵便番号・住所 ⑥電話番号

6 その他

※結果については、2022年 8月5日(金)までにご連絡いたします。

※お申し込み後3日以内に受付済の返信がない場合は事務局までお問合せください。

※お申し込みいただきました個人情報、本事業のみに使用いたします。

※すべての授業で保護者参観ができます。

※お子様の安全を守るため、必ず保護者が送迎してください。

7 運営

NPO法人インパクト NPO法人ひたち親子の広場



申込メール



令和4年度「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」報告書

1. 趣旨

毎年、社会連携センターでは、大学間協定または学部間協定を締結している自治体の担当者として、近況の報告や意見交換をする場として「実務者間意見交換会」を開催している。

本年度も大学間協定を締結している茨城県並びに県内10市町村（阿見町、茨城町、鹿嶋市、高萩市、筑西市、東海村、那珂市、日立市、常陸大宮市及び水戸市）及び学部間協定を締結している県内7市町（石岡市、大洗町、小美玉市、常総市、大子町、常陸太田市及び守谷市）の実務担当者とともに、地域課題解決のための連携活動をさらに進めていくための場として意見交換会を開催した。

2. 開催方法・日時・場所

開催方法：対面（※新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえでの実施）

日時：令和4年11月2日（水）13時30分～15時30分

場所：社会連携センター研修室

3. 主催：社会連携センター

4. 内容：SDGs ボードゲームを活用したゲーム体験及び振り返り

昨年度まではテーマに分かれての懇談形式として実施してきたが、本年度については、より学生や自治体担当者同士の交流を活発化させ、楽しく意見交換を行えるよう、ゲーム体験の交流と振り返りを兼ねた懇談として実施した。

5. ファシリテーター

松崎 貴志 氏

ダイドードリンコ株式会社 つくばオフィス 課長

資格：SDGs ボードゲーム認定ファシリテーター

Get The Point 認定ファシリテーター、風水害 24 認定ファシリテーター、

脱炭素まちづくりファシリテーター、防災士、ドローン操縦士回転翼3級、

第四級アマチュア無線技士 など

6. 次第

司会進行：菊池社会連携課長補佐

- ・開会あいさつ：中村社会連携センター長
- ・ワークショップ
ゲーム体験，グループごとの振り返り，全体まとめ
- ・閉会あいさつ：鳥羽田理事

7. 参加者

- ・連携協定先自治体職員：14 名（10 自治体）
茨城県，水戸市，常陸太田市，高萩市，那珂市，筑西市，小美玉市，大洗町，東海村，阿見町
- ・本学学生：2 名
- ・本学教職員：10 名（うちワークショップ参加 2 名）

8. 報告

はじめに，中村センター長から開会のあいさつがあり，本年度の趣旨説明とともに「大学や学生の力が必要な時にご連絡いただきたい」との話があった。その後，司会より講師紹介を行い，松崎氏によるボードゲームを活用したワークショップに移った。

今回使用したボードゲーム「Sustainable World BOARDGAME」は，2030 年までの限られた時間の中で，予算をうまく活用しながら，SDGs が掲げる 17 のゴール達成を目指すという内容となっている。スタート地点は 2021 年現在の日本の達成状況を反映しており，そこから如何にそれぞれのゴールのスコアを上昇させることができるかを目指すこととなる。

プレイヤーもそれぞれ「大企業」「中小・ベンチャー企業」「慈善団体」「大学・研究機関」の立場となり，各団体の特色を生かしつつ，協業（コラボレーション）しながらゴール達成を目指していく。最初はルール複雑もあり戸惑う部分が多かったが，時間が経つにつれ，自然とプレイヤー同士がコミュニケーションをとりながらゲームを進めていくようになった。

ゲーム体験終了後，松崎氏からは，ルールがよく分からないなかスタートすることは，「SDGs」自体を明確に理解しないまま，しかし推進していかななくてはならないという現状を反映したものであるとの説明があった。また，各団体（プレイヤー）がコミュニケーションをとり，協業しながら，共通の目標に向かって協力をしなければゴールの達成が難しいように設計されており，実際に SDGs を推進するうえでも重要となる要素を自然と学べる仕組みとなっていた。

参加者からは，「一方を上げようとする」と他のゴールに影響が出てしまい，バランスをと

るのが難しい」といった意見や「推進するうえでも、目指すゴールが異なるとうまくいかず、コミュニケーションをとりながら方向性を一致させることが大切だと感じた」といった意見が出された。

最後に、松崎氏より日本における SDGs の現状について解説をいただいた。特に、17 番のパートナーシップについては、企業・個人・自治体ではそれぞれ行えることが限定されてしまうため、協働した取り組みが重要となるとの指摘があった。今回の意見交換会についても、「ただのゲーム体験で終わらせるのではなく、この場で得た知識や自治体同士のつながりを、具体的なアクションに結び付けることが大切である」とのお話があった。

閉会にあたり、鳥羽田理事からは「今後も自治体同士の横のつながり、大学とのつながりを強化し、今回のテーマに限らず協力していきたい」との話があった。

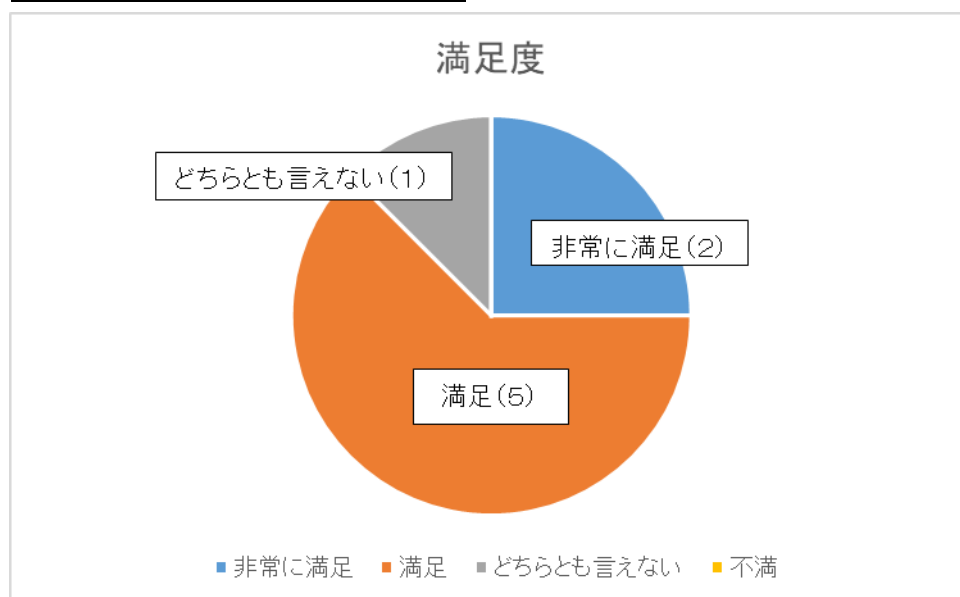
9. アンケート結果

対象：自治体職員参加者（14 名）

回答：8 件

<意見交換会の満足度について>

非常に満足	2
満足	5
どちらとも言えない	1
不満	0



<上記満足度を選んだ理由> ※一部抜粋

○非常に満足

- ・他の自治体がSDGsに対してどのような取り組みをしているか知ることができたから。
- ・SDGsのボードゲームは初めてで、楽しく学べた機会となった。

○満足

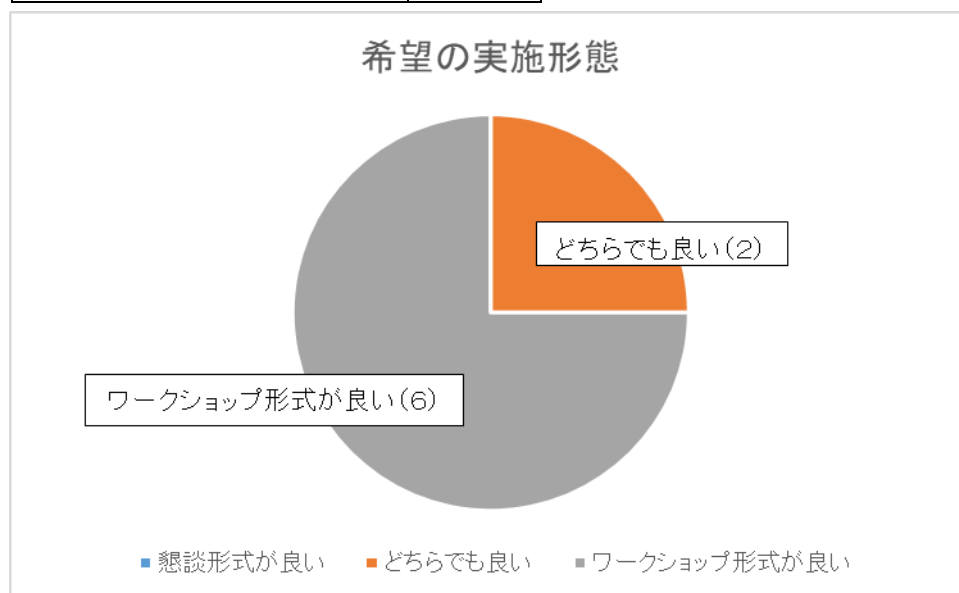
- ・ゲームを通じて、楽しみながらもSDGsを学べ、かつ、参加者の交流が図れた。
事前アンケートに触れる時間があっても良かった。
- ・SDGsのボードゲームを通して現在抱えている課題や目標達成に向けて取り組むことについて理解を深めることができました。

○どちらとも言えない

- ・茨城大学様や講師のダイードリンコ様、他市町村の方々との意見交換は有意義と感じる一方で、今回のテーマであったSDGsに関しては、似たような立場である自治体同士ではなく、大学様側とももっと意見交換をしたかった。

<意見交換会の実施形態について>

懇談形式が良い	0
どちらでも良い	2
ワークショップ形式が良い	6



<上記実施形態を選んだ理由> ※一部抜粋

○どちらでも良い

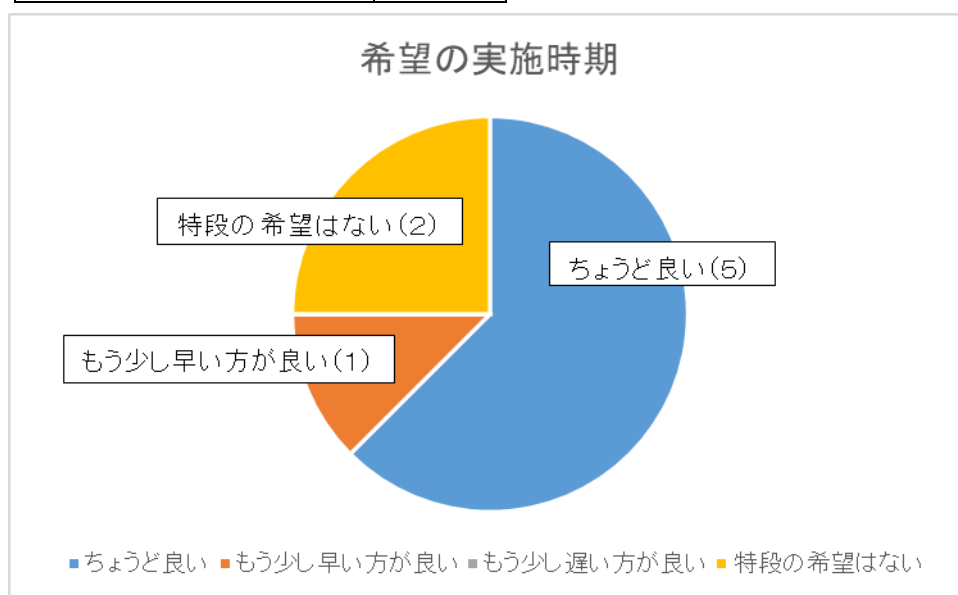
- ・意見交換や議論を想定するのであれば懇談形式、交流やテーマを簡単に知るという目的であればワークショップと、目的に応じて使い分けるのでいいと思うが、せっかくの場なので、自治体としては茨城大学様との意見交換等を主軸に行えると嬉しい。

○ワークショップ形式が良い

- ・コミュニケーションがとりやすい。
- ・何か作業を通じて考え、そして発信することで懇談形式よりも得られるものが多いと感じたから。

<意見交換会の実施時期について>

ちょうど良い	5
もう少し早い方が良い	1
もう少し遅い方が良い	0
特段の希望はない	2



<実施時期の具体的な希望>

○ちょうど良い

- ・市町村の議会の時期と被らない日程

<今後、意見交換会で取りあげて欲しいテーマについて>

- ・県の均衡ある発展のためには、どうすればよいか
- ・茨城県における SDGs の達成状況
それを踏まえて、茨城県の達成状況の向上に向けて市町村で取り組めることは何が挙げられるか。
- ・自治体と大学の連携事業の模索等

<感想等> ※一部抜粋

- ・連携協定を締結していても、そこから具体的に動き出せないのも、意見交換会を通じて、さらに連携が深められるきっかけが生まれればと思います。
- ・ボードゲームから意見交換を行い、各市町村の意見や学生目線での意見を聞くことができ参考になりました。また、ボードゲームも進めていくなかで、SDGsの課題解決の難しさを実感することができました。

10. まとめ

- ・終了後のアンケートでは、満足度として「非常に満足」及び「満足」といった回答を多くいただいた。「他自治体のSDGsに関する取り組みを知ることができた」や「参加者の交流が図れた」といった感想をいただいております。ワークショップ形式へと変更した目的は一定程度果たせたものと考えています。
- ・一方でゲーム体験に主軸を置いたこともあり、「大学側ともっと意見交換を行いたかった」といったご意見もいただきました。今回は参加者数の関係もあり、各グループに1人、学生又は教員が入るよう調整を行ったが、今後は大学の立場から意見交換に参画できるような方法も検討する必要がある。
- ・意見交換会の実施形態については、ワークショップ形式を希望する意見が多かった。これまで懇談形式を基本としていたが、今後についてはワークショップ形式での実施も十分選択肢足り得るものと考えています。一方で、大学との意見交換を望む声もあり、テーマや目的に応じて実施方法等は検討していきたい。
- ・実施時期や希望テーマについても貴重なご意見をいただいております。次回以降開催の参考としていきたい。



開会あいさつ



ファシリテーター：松崎氏



ゲーム体験①



ゲーム体験②



ゲーム体験③



ゲーム体験④



閉会あいさつ

令和 4 年 8 月 29 日
社 会 連 携 課

茨城県子宮頸がんセミナーの開催について（報告）

<概要>

○目的

子宮頸がんは 20 歳代から罹患率が上昇するが、検診の受診率が低いことから、検診の対象年齢（20 歳）を迎える学生等に子宮頸がんや検診に関する正しい知識を身につけてもらうとともに、関心を喚起することにより検診の受診を推進する。

○講師

一般社団法人シンクパール 代表理事 難波 美智代 氏

○実施方法

- ・ 対面（場所：社会連携センター3 階研修室）とライブ配信のハイブリット形式
- ・ ライブ配信を録画し、一定期間オンデマンド配信

○開催日程

令和 4 年 6 月 29 日（水）16：00～17：30

○オンデマンド配信期間

令和 4 年 7 月 19 日（火）～ 8 月 21 日（日）

○対象者

茨城大学学生及び教職員

○その他

本セミナーは茨城県からのご依頼のもと、県との共催として実施。

<内容：当日進行表より>

時間	内容
16：00	開会 開会あいさつ（保健管理センター所長 布施泰子）
16：05	講演 講師の体験や統計データなど様々な切り口から女性のライフスタイル、人生設計を語りかけ、子宮頸がんの本質に迫る大変充実した内容であった。
17：25	質疑応答 ※オンライン参加の場合はチャットを利用し受付
17：30	閉会

<参加者>

○当日参加者

対面：17 名

配信：43 名 計 60 名

○オンデマンド配信

再生回数：133 回

<セミナーの様子>



開会あいさつ（布施所長）



講演（難波氏）

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会
「大規模災害に学ぶ これからの茨城 ～茨城の抱えるリスク 防災・減災への備え～」
実施報告

実 施 日	令和4年10月7日（金）	天気：雨
時 間	13：30 ～ 15：50	
場 所	ホテルテラスザガーデン水戸 3階 シーブリーズ	
司 会	研究・社会連携部長 川島美奈子（社会連携センター副センター長）	
パネリスト発表者	茨城大学大学院理工学研究科（理学野）准教授 若月泰孝 氏 東日本電信電話株式会社千葉事業部茨城支店設備部長 村山直之 氏 茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課副参事 大久保孝 氏	
パネルディスカッション進行	茨城大学学長特別補佐（社会連携）・社会連携センター長 中村麻子	
参 加 者 数	85名	
アンケート回収数	42部	
資 料 準 備 部 数	130部	

【実施した効果や今後の対応について】

- ・終了後に回収したアンケートでは、講演会参加前と後で意識や考えに変化はあったかとの問いに対して、「非常にあった」（17名）、「少しあった」（20名）という方が約88%で、「マイタイムライン、トリガーの考え方を初めて知りました 自組織にそれらのマニュアル、考え方があるのかを確認したいと思います 声掛けの重要性を再確認しました」「防災・減災について自分で対応する必要性が強く印象づけられた」「あまり日頃私たちの目に触れることのないような取り組みが様々に行われていることを知ることができました あとは住民である我々が日頃から防災・減災を意識することが一番重要であると考えます」などの意見があった。
- ・講演会の満足度についての問いに対して、「満足」（17名）及び「やや満足」（17名）という方が約81%で「防災という自分に身近なテーマだったから」「産・官・学、それぞれの取り組みを知ることができた 三者が連携していくこと、必要としていることがわかった」「防災に関する色々な角度の見方、特に事業者様の動きを聞いたことが有意義だった」という意見があった。
- ・今後取り上げて欲しいテーマについては、「デジタルトランスフォーメーションの推進」「防災・減災」「カーボンニュートラル」が多く選択されており、最近のトピックに関心が高いことが見て取れた。これらを貴重な意見として、今後の参考にしていきたい。
- ・講演会参加の前と後で、意識や考えに変化があったと多くの参加者が回答していることがわかり、有意義な講演会になったことがうかがえる。

参考：茨城大学ホームページ（大規模災害に学ぶこれからの茨城 茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会を開催）

<https://www.ibaraki.ac.jp/news/2022/10/18011733.html>

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会

「大規模災害に学ぶ これからの茨城 ～茨城の抱えるリスク 防災・減災への備え～」



大規模災害に学ぶ これからの茨城

～茨城の抱えるリスク 防災・減災への備え～

令和4年

10月7日(金)

13:30～15:40

【概要】

わが国では近年、大規模な災害が相次いで発生し、甚大な被害が生じています。

茨城県においても、ここ数年の間に、平成27年関東・東北豪雨や令和元年東日本台風による水害などの大規模災害による被害が発生しております。それらの経験を踏まえ、大学や産業界における取組や、茨城県における防災や減災への対応について紹介いただきます。

本連携講演会では、各パネリストからの発表とともに、大学、産業界及び行政の有識者によるパネルディスカッションを通して、大規模災害に学ぶこれからの茨城について一緒に考えていただきたいと思います。

【会場】 ホテル テラス ザ ガーデン水戸

〒310-0015 茨城県水戸市宮町1丁目7-20
TEL 029-300-2500

【定員】 対面 先着100名

【入場無料】 どなたでもご参加いただけます。ただし、事前登録者のみとさせていただきます。

【主催】 茨城大学・茨城県・茨城産業会議

【パネリスト】

若月 泰孝 准教授

茨城大学大学院理工学研究科（理学科）

村山 直之 様

東日本電信電話株式会社千葉事業部茨城支店設備部長（茨城産業会議推薦）

大久保 孝 様

茨城県 防災・危機管理部 防災・危機管理課 副参事（防災体制強化担当）

【お問い合わせ・お申込み】



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8585

メール：chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp

ホームページ：<https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/8020.html/>

プログラム

13:00 開場

13:30 開会 あいさつ 太田 寛行 茨城大学長

第1部 パネリスト発表

●パネリスト

若月 泰孝 氏（茨城大学大学院理工学研究科（理学野）准教授）
村山 直之 氏（東日本電信電話株式会社千葉事業部茨城支店設備部長）
大久保 孝 氏（茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課副参事）

14:35

休憩

14:45

第2部 パネルディスカッション

●ファシリテーター

15:40

中村 麻子 茨城大学学長特別補佐（社会連携）・社会連携センター長

パネリストプロフィール



若月 泰孝 氏

茨城大学大学院理工学研究科（理学野）
准教授

名古屋大学にて、気象学の研究（梅雨前線帯の豪雨のメカニズム）で博士号を取得し、（財）地球科学技術総合推進機構、海洋研究開発機構で地球温暖化による降水の気候変化予測の研究を推進した。筑波大学（助教）にて、降水現象の気象・気候学的研究を推進した後、2016年から茨城大学理工学研究科理学野の准教授を務める。気象・気候、豪雨や災害に関連する研究を推進し、茨城県地域気候変動適応センターの構成員も務める。



村山 直之 氏

東日本電信電話株式会社千葉事業部
茨城支店設備部長
（茨城産業会議推薦）

千葉県出身
1990年 日本電信電話株式会社入社
2000年 NTT再編成に伴い東日本電信電話株式会社へ移行
2009年 日本電信電話株式会社 情報流通総合基盤研究所
2016年 株式会社エヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム 担当部長
2019年 東日本電信電話株式会社 千葉事業部 設備部 サービス運営部門長
2022年 東日本電信電話株式会社 千葉事業部 茨城支店 設備部長



大久保 孝 氏

茨城県
防災・危機管理部防災・危機管理課
副参事（防災体制強化担当）

1991年 茨城県入庁
2009年 生活環境部消防防災課（係長・主査）
→東日本大震災経験
2016年 生活環境部防災・危機管理局 防災・危機管理課（防災G課長補佐）
2018年 防災・危機管理部消防安全課（課長補佐（総括））
2021年 防災・危機管理部防災・危機管理課 副参事

お申し込みはホームページよりお願い致します。※申込〆切 令和4年10月5日（水）

⇒9月29日より延長しました。



◀◀◀お申し込みはこちらから
<https://forms.office.com/r/5R0HFjNgSm> :

茨城大学社会連携センター



【お問い合わせ】茨城大学社会連携センター
TEL:029-228-8585 Mail:chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp



【会場】
ホテル テラス ザ ガーデン水戸
〒310-0015
茨城県水戸市宮町1丁目7-20
TEL 029-300-2500
※駐車場の台数に
限りがございますので、
ご協力をお願い致します。

令和 4 年度地域協創 PBL について**<授業概要>**

茨城県における地域振興を実践的に学んでいく授業となっている。受講生は、他大学や様々な学部から参加する学生と共に自治体や企業等で実地体験を行い、現地視察や関係者との意見交換を通じて、地域資源の強みと弱みを把握しながら新たな地域振興プランの提案を行う。これら一連の過程をとおして、「地域志向で協創力ある学生」「現場志向で課題解決力ある学生」「未来志向でリーダー力ある学生」の育成を目指していく。

今年度は鹿嶋市をテーマに、鹿島神宮や県立カシマサッカースタジアムなどを見学し、地域振興を目的とした企画提案を行った。

対象学生：全学共通

対象年次：2 年次～4 年次

担当教員：社会連携センター講師 桐原 武文

実施日程：9 月 14 日（水）～16 日（金） ※前期集中講義

<受講生>

本講義は、本学学生に加え地域協創人材教育プログラムに参加している 4 校（茨城キリスト教大学・茨城県立医療大学・茨城工業高等専門学校・常磐大学）との単位互換科目となっている。本年度は、茨城キリスト教大学及び茨城工業高等専門学校から受講があった。

茨城大学：8 名

茨城キリスト教大学：2 名

茨城工業高等専門学校：4 名 計 14 名

<授業内容>

受講生は、大学・学科等に関係なく 5 つの班に分かれて活動を行った。

1 日目：担当教員の導入講義を受講するとともに、実際に現地に移動し、市職員やまちづくりを行っている企業の担当の方からお話をいただいた。

2 日目：終日鹿嶋市内をめぐり、施設等の見学を行うとともに、最終日の企画提案に向けて班ごとに準備・検討を行った。

3 日目：これまでの学修成果をもとに地域振興プランの提案を行った。発表の場には、1 日目にお話を伺った講師の先生方にもお越しいただき、丁寧な講評をいただいた。

授業終了後、発表の際にご指摘いただいた点を修正し、最終的な「企画提案書」をまとめ、提出した。

日程	講師	内容
9/14 (水)	茨城大学・桐原武文	導入講義：茨城を深掘する 地域の魅力を発信する
	鹿嶋市政策秘書課	地域講義①：理想とする鹿嶋市の将来像に向けた行政政策とは
	株式会社 KX プロジェクトマネージャー・菊池優	地域講義②：プロスポーツチームを活用した地域課題解決 / まちづくりとは
9/15 (木)	茨城大学・桐原武文	市内見学①：鹿島神宮及び門前町
		市内見学②：県立カシマサッカースタジアム 鹿島アントラーズクラブハウス
		市内見学③：鹿島臨海工業地帯
9/16 (金)	茨城大学・桐原武文	グループ演習：発表準備
	(講評) 鹿嶋市政策秘書課課長補佐・茂垣諭 株式会社 KX プロジェクトマネージャー・菊池優 茨城大学・桐原武文	全体発表：1. 移動をアクティビティに 2. 鹿嶋市の観光客増加と交通インフラ整備の提案 3. 鹿嶋市補完計画 4. 鹿嶋アクティブスポーツタウン化計画 5. かしまとりこプランの提案
	茨城大学・桐原武文	全体総括：講義のまとめ、振り返り

人社の学生が水戸市のまちづくりに関する施策を提言
—大学生によるまちづくりプレゼン発表会を実施

11月22日、本学水戸キャンパス講堂において「大学生によるまちづくりプレゼン発表会」が開催されました。

本学のキャンパスが所在する水戸市は、新たな都市づくりの基本方針となる「水戸市第7次総合計画」の策定を進めています。市は、市民と行政が協働した計画づくりを目指しており、このたびその一環として、人文社会科学部の5つのゼミの学生たちが、高橋靖市長や田尻充副市長、関係する市職員約100名（会場約50名、リモート視聴約50名）に向けて、水戸市のまちづくりに関する提言をおこないました。



発表したゼミ・テーマは以下のとおり（発表順）。

現代社会学科	田中耕市 ゼミ	中心市街地活性化
現代社会学科	小原規宏 ゼミ	水戸ならではの観光振興
法律経済学科	清山 玲 ゼミ	子育て支援の充実
法律経済学科	土屋和子 ゼミ	福祉の充実
現代社会学科	原口弥生 ゼミ	地球温暖化対策、循環型社会に向けた取組の促進

各ゼミ生は、9月下旬からそれぞれのテーマに沿った課題の抽出やアンケート調査のほか、他の自治体の事例の調査などをおこない、その研究成果を発表しました。

中心市街地活性化をテーマに研究した田中ゼミは、「まちを咲かせる」と題し、来年 7 月にオープンする新市民会館を核とした中心市街地に歩行者を増やし、にぎわいをもたらすための施策を提言。水戸らしさは「梅」に象徴されるとして、施設や市街地各所への動線を“梅色”で歩道上に表示し、歩行者に街の一体感や歩きやすさを体感してもらう仕組みを提案しました。



田中ゼミ

人文地理学を専攻する小原ゼミは、水戸ならではの観光振興をテーマに研究。市民の観光への関心や観光客の宿泊率の低さを指摘したうえで、千波湖や偕楽園など市の観光資源を活用した「朝活」や、水戸の歴史と食文化をめぐるツアーなどを企画することで、観光客の誘致やシビックプライドの醸成に寄与するとの研究成果を発表しました。



小原ゼミ

子育て支援の充実について研究した清山ゼミは、市内の子育て世帯や茨大生、教職員などを対象としたアンケートや、他の自治体の子育て支援の施策の調査を実施。経済面での支援をおこない、市民が子どもを産み育てたいと思えるような環境づくりが大切と指摘しました。また保育士の厳しい労働環境を挙げ、保育士の働き方改革の推進や潜在保育士、保育士希望の学生を支援する施策などを提言しました。



清山ゼミ

土屋ゼミは福祉の充実をテーマに研究。「水戸市第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の重点施策である「認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進」をもとに、認知症当事者やその家族、地域住民などの交流の場となる「認知症カフェ」の拡充を提言。また、高校生を介護助手としてアルバイト雇用をし、介護の担い手を増やす施策も提案しました。



土屋ゼミ

環境社会学を専攻する原口ゼミは、一昨年4月から変更になったゴミの分別方法の周知が不足していることを指摘し、特に集合住宅における分別表示を徹底することを提起しました。また、学校給食で発生する食品ロス解消のため、コンポストを設置して生ゴミをたい肥として活用することや、市民の節電意識を高める「アースアワー（地域全体で同じ時間に一斉に消灯）」の実施なども提案しました。



原口ゼミ

それぞれの発表に対し、高橋市長や各テーマの関連部署の市職員からコメントや質問が寄せられ、学生たちはそれらに真摯に応えていました。

高橋市長は「私たちにはない視点での提案が多くあり、大変参考になった。今回の研究・プレゼンをきっかけに、水戸市の現状を知り、現実の中でどのような対応をしていけるか、さらに研究をブラッシュアップしていただけたら。引き続きやりとりを重ね、よりよい総合計画をつくれるように努めていきたい」と講評しました。



プレゼンに登壇した飯田恒也さん（人社３年）は「今回の研究をとおして、私たちにしかできないこと、水戸市にしかできないことについて考えた。自分たちも市を変えられると実感できた」と話しました。また「総合計画の策定に、自分たちの視点が必要とされていることがよくわかった。市長や市職員の方から具体的な鋭い質問をいただいて、とても勉強になった（大越優香さん（同））、「行政のリアルな部分を知ることができ、その中で自分たちが何ができるかを考えた経験は、今後も活かせるものだと思う（所士温さん（同））」と、それぞれ感想を述べました。

（取材・構成：茨城大学広報室）

守谷市と相互連携・協力に関する協定を締結—農学部との協定から全学に拡充「野心的な取り組みを」



茨城大学と茨城県守谷市は、2023 年 2 月 2 日、相互連携・協力に関する協定を締結しました。同日、本学の太田寛行学長と守谷市の松丸修市長の出席のもと、守谷市役所で締結式を行いました。

本学と守谷市との間では、今回の全学協定に先立つ 2017 年に農学部と協定を締結しており、共同の取り組みを推進してきました。農学部との連携では、守谷市で生産されるほうれん草や牛肉といった農産物の機能性分析や加工についての研究、ドローンを使ったスマート農業の実証実験などを実施してきました。

これらの取り組みに加え、近年では他の学部・研究科の教員の同市との関わりも生まれていることから、このたび全学レベルでの連携協定へと拡充することとなりました。今後、地域の課題解決に係る取り組みや、各種研究における実証実験などを行っていきます。



協定の締結式で守谷市の松丸市長は、「自治体間競争が激しくなる中、これからの地方行政は、これまでの体質を改変して新しいことに挑戦することが責務になっている」と現状認識を示した上で、茨城大学の鈴木京平初代学長の「野心満々たれ」という言葉に触れ、「われわれも野心的でないといけない。茨城大学との連携により、学術的に裏付けされたチャレンジをしていきたい」と力強く述べました。



また、太田学長は「現在も続く本学の『1day キャンパス』という取り組みを最初に実施したのが守谷市で、『今後もやってほしい』という声もいただいていた。これからの大学のあり方を考える上で、自治体との連携はきわめて重要。守谷市との取り組みについて、さっそくいろいろと検討したい」と話しました。

奇しくも、締結式が行われた2月2日は、市町村合併で守谷市が発足した記念の日（2002年）。

松丸市長も「新しい出発、門出という意味で良い日に協定を結ばせていただけた」と述べ、「光栄な日に設定いただいた」と応じた太田学長とともに、今後のさらなる交流を確認しました。



ひたちなか市と包括的な連携協力協定を締結
—地域課題解決のためより一層の連携を

茨城県ひたちなか市と茨城大学は、2023年3月20日、「ひたちなか市と国立大学法人茨城大学との包括的な連携協力に関する協定」を締結しました。同日、本学の太田寛行学長とひたちなか市の大谷明市長の出席のもと、ひたちなか市役所で締結式を執り行いました。ひたちなか市が大学と包括連携協定を締結するのは、本学が初めてとなります。



ひたちなか市と本学はこれまでも、教育分野における人事交流などのほか、学生たちもひたちなか市内をフィールドとした地域の課題解決学修や課外活動をおこなってきましたが、今回の協定締結を機に、部活動地域移行に関する助言や学生指導員の派遣、市民や市職員の実環境意識向上のためのワークショップ、シンポジウムの開催など、地域課題の解決を図るためにより具体的な連携事業をおこなっていきます。

締結式で大谷市長は「茨城大学では様々な分野の研究が活発におこなわれており、地域の課題に対して大学が持っている知見をお借りし、ともに解決策を見出すことができるのではないかと期待を持っている。教育分野においては、教員の指導力アップなどに引き続きお力添えをいただきたい」と連携分野の裾野を広げ、協力体制を強化していきたい考えを示しました。また、「今後の人口減少社会を見据え、この街をフィールドにして様々な方が交流し、関係を持っていただくことが重要と考えている。学生たちが社会とつながりをもって学んでいただく場として、ひたちなか市を活用していただけたらうれしい」と期待を述べまし

た。



太田学長は「来年4月に設置を予定している『地域未来共創学環（仮称）』では、学生たちが自治体や企業で働きながら学ぶコーオペ教育を導入するが、ひたちなか市や市内の企業も学生たちを受け入れてくださる。地域の中で茨大生が活躍する場を提供いただき、非常にうれしく思っている。今回の協定締結をきっかけに、教育面、産業面のみならず様々な分野で連携し、そこで得た成果を発信していけたら」と話しました。



来年（2024 年）、ひたちなか市は市制施行 30 周年、茨城大学は創立 75 周年（創基 150 周年）をそれぞれ迎えます。両者は周年記念の企画なども検討していきたいとしています。



（左から）締結式に出席した野沢恵子ひたちなか市教育長、大谷市長、太田学長、鳥羽田英夫理事（社会連携担当）、原口弥生人文社会科学部長

（取材・構成：茨城大学広報室）

令和4年度 茨城大学社会連携センターアドバイザーボード意見書

令和4年度社会連携センターの活動・取り組みについて

①全体について

大学には、研究活動及び学生の教育という大きな役割があるが、地方の国立大学には加えて、地域に貢献するという期待を担っていると思います。他の大学の取り組みまではよくわかりませんが、茨城大学の社会連携センターを中心とするさまざまな取り組みはその役割を果してくれていると感じます。

地域の企業や自治体へのPRに加えて、中学、高校等にも茨城大学の取り組みをPRして目的意識の高い優秀な学生の確保にもぜひ繋げて頂ければと思います。

今まで長い間、事業連携や様々な面でお世話になってきましたが、今回改めて社会連携センターの役割や事業内容の説明を頂き、正に大学と地域を繋ぐ大きな役割を担っていることと、それらに関する様々な事業を実施されておられることを知り、その役割の重要性和御苦労に対し敬意を表すると同時に、その重要性を再認識した次第です。

私が現在携わっている事業の中心が生涯学習、社会教育の分野ということで、社会連携センターとしての取り組みを期待して参加しましたが、令和4年度の事業説明の中で思ったより少ないことに正直驚きを隠せませんでした。今後の生涯学習・社会教育分野での取り組みの充実、拡充を期待しております。

出生数が毎年減少し、現役世代が減り続ける今、地方の大学は、若者に魅力ある教育環境の充実に加え、地域社会への貢献や企業との協働などにより、その存在価値を高めていくことがより重要になっていると思います。

このため、社会連携センターが地域のプラットフォームとなり、今後も多様な主体と連携・協働することで、地域の活性化やイノベーションの創出に寄与されますことを大いに期待いたします。

たくさんの資料をご用意いただいたのご説明ありがとうございました。まだまだ行動に制限のある中、どのジャンルも素晴らしい活動だったと思います。

全体を見渡しての感想ですが、実に多くの企画やイベント、あるいは自治体や産業界との連携強化の取組みがおこなわれています。限られた人員の中でコロナの問題もありながらこれだけの企画を行われたことを賞賛したいと思います。特にアントレプレナーシップ教育プログラムは他大学に負けない特徴ある教育プログラムだと思います。自ら行動を起こし新たな価値を生み出していく力を持った学生が同プログラムによって多く社会に飛びだしていくことを期待しています。

②各事業について

【アントレプレナーシップ教育プログラムについて】

学生ビジネスプランコンテストですが、応募件数が倍増したとのことで素晴らしいと思います。審査員をさせて頂きましたが、年々質が向上し、内容もユニークなものが増えていると感じます。ただ、決勝に残るうち大学生が少ないと思います。高校生も特定の学校に偏る傾向が強いです。高校生の場合、先生の指導や先輩からの引継ぎもあり、特定の学校が優秀な内容を継続することは認めざるを得ないと思います。大学生についてはアントレプレナー教育の充実とコンテストの積極的な告知により、件数が増えることに期待します。また大学発ベンチャーも増えていくことを期待します。

今の学生は恵まれているというのが率直な感想です。社会に出る前に様々な分野の実践的な知識や技能を学ぶことや実践者からの講義、社会課題解決のための実践力などを学ぶことは学生にとって非常に大切なことであると思います。スタートして間もないということですが、せっかくの機会を生かすためにも受講者数を増やす工夫と今後の成果に期待します。

令和4年度は、入門講義の受講者が昨年度より3割以上増えており、より多くの学生に起業家・社内起業家としての基礎が浸透できたものと思われます。また、ゲスト講師に普段接することのできないマイクロソフトのアメリカ本社社員を起用されるなど、学生のニーズを捉えた取組がなされており、来年度以降も引き続き、内容の充実を図られることを期待します。

なお、当該プログラムについては、R5以降、「ビジネスプランコンテストの入賞・入選件数を毎年5件」という高い目標を設定しております。ついては、この目標達成もしっかり意識していただきながら、プログラムを進めていただきますことを要望いたします。

アントレプレナーシップ教育を進めてきて、実際の起業を目指すものではないとしながらも、実際に法人設立がそれだけ出てきたというのは大きな進歩。ゼミによって入賞者を増やしたことも、可変性を持ちながら組織を運営してこられた成果と思う。とはいえ、入賞者の数はわかりやすすぎるKPIであるので、本来のアントレプレナーシップ教育の目的がブレないように進めていただければと考える。

中村センター長のD i n o wを4月21日付け日刊工業新聞の紙面で取り上げさせていただきました。アントレプレナーシップ教育プログラムを推進する大学組織の長自らがベンチャーを立ち上げ活動しているというのは、同プログラムを推し進める上でとても良い目標になりますし、茨城大学のアドバンテージだと思います。2022年度の茨城県学生ビジネスプランコンテストでは茨城大学から2チームが最終審査に進出しましたが、昨年の0から考えると教育プログラムの成果なのではないでしょうか。学生が起業を検討する上で人的ネットワークの構築が不可欠だと思います。他大学など茨城大学以外で起業を考えている人たちと交流する機会はあるのでしょうか。

【地域連携事業、企業・産業界、自治体・地域等との連携について】

さまざまな地域連携事業をされているとおもいます。学生が企画・運営に関わる学生パートナーにさらに多くの学生が参画して頂けたらと思います。学生が参画できるメニューも増やして頂けたらいいかと思います。

大学は教育機関であり、多様な連携事業が学生の人間形成や教育活動に極めて有効であると思います。今後様々な関係機関との連携が行われることを期待します。また、大学は研究機関でもあると思います。教員の研究の分野についても更なる連携が促進し成果を挙げられることを期待します。

自治体や企業と連携した様々な活動が実施されており、コロナ禍ではありましたが、学生の積極的な社会参加にもつながったと思われます。

地域に根差した大学として、学生及び教員が県内の産業界や各種団体など多様な人々との交流を深められるよう、地域との連携・協働を促進する取組の活性化に期待します。

県との予算を割いていただいた事業としては終了とのことだが、課題先進県と言われる茨城だからこそ、今後自治体との実効性のある取り組みに注目が集まりそう。エリアの制限を超えた取り組みにも期待したい。

労働人口の減少や少子高齢化、商店街の衰退など多くの課題を抱える地方自治体と大学の連携強化・拡大は今後の地域づくりにおいてとても重要なことだと思います。大学が持つ多くの知見、特にDXやデータサイエンスなどは自治体にとっても非常に有効だと思いますが、自治体側からはどのような要望が寄せられているのでしょうか。

【リカレント教育について】

リカレント教育のカスタムコースについては、回数を重ねて根付いて来たと思います。できればもっと参加する企業や自治体が増えればいいと思います。授業の形態もコロナ禍を経てオンライン授業が定着した感がありますが、やはり学生と一緒に対面で授業を受けて交流できる形がいいと思います。

リカレント教育が企業で働く人の「学び直し」という意味から「人生設計の見直し」「働き方改革」「コロナ禍におけるリモートでの勤務や学び方」などの「社会人（日本人）の学び直し」という意味に変化し始めているように思えます。従って「学び直しのプログラム」も既存の科目にとらわれず新しいプログラムの開拓も必要なのかも？また、対象者も一般の人などに広げることはどうなのでしょう。

リカレント教育については、大学の知見を活かした多様なプログラムにより、社会人の「学びなおし」が促進されているものと思います。

なお、産業構造が大きく変化する中で、成長分野への円滑な労働移動を促すためのリスキリングの重要性が高まっており、中でも、デジタル人材の育成が急務となっていることを踏まえ、今後は、デジタル分野のリスキリングについても、積極的に取り組まれますことを要望いたします。

立教セカンドステージ大学という、50歳以上のシニア向けの生涯教育プログラムがあるが、ここから大学院に正規に入学する人が少なくない。また、このモデルを使った大学も他に出てきている。社会人をターゲットに広げるためのモデルとして参考になるのではないかな。すでに本学でのコンテンツは十分に作られてきていると思われるので、それらをさらに活かし、入学者を増やすモデルも作れるといいのではないかな。また、カスタムコースをもとに新しく一般向きのプログラムにも広げていけると面白いと感じる。

公開講座は社会的課題に関連する、というテーマはあるのだと思いますが、ヤギの飼育から成年後見人制度や情報処理エンジニアの育成講座までラインナップの幅がとても広く、リカレント教育に興味を抱く機会にもなる良く考えられたラインナップだと思います。他方、「企業の採用力向上講座」は地域企業の経営課題に直結する有用な講座であると思いますが、受講者が1名というのはもったいない結果だと思います。どこに行っても人手不足と伺いますので、是非今年度以降も拡大していただきたい講座だと考えます。

③その他

茨城大学には特色ある研究分野があると思います。例えばこの度開設した「カーボンリサイクルエネルギー研究センター」における研究成果や、気候変動に関する知見などを地域の企業や自治体に提供するなど、社会連携センターも加わってプログラムを開発してみてもいいのではないでしょうか。

アントレプレナーシップ教育プログラムがスタートしましたが、現場視察や実際の起業家との交流など具体的な施策をさらに充実させて、勉強だけに終わらず実際に起業家を目指す学生の養成を行っていただきたいと思います。

「生涯学習・社会教育の更なる進展を目指す活動」をしている立場からすると、本日の事業説明を非常に残念な思いで聞いておりました。茨城大学は茨城県の生涯学習・社会教育分野の牽引者、また人材育成の中心、そして私たちの心の拠り所という意識で現在に至っています。特に「社会教育主事講習」事業は長い間実施して頂き、現在この事業を受講して県関係、市町村の派遣等で活躍している社会教育主事数は約70名に及んでおり、この事業が県内で実施できないということは茨城県の教育行政にとって計り知れない損失になり兼ねません。「社会連携」には大学の魅力を発信する力と大学へ引き付ける求心力の視点が大切であり「社会教育主事講習事業」はこの2つの力を内包する歴史ある「茨城大学の地域連携事業」であると確信しております。私は、茨城大学を卒業し教員になり、社会教育主事講習を受講し社会教育行政に携わり、退職してからも社会教育に貢献すべく活動しています。茨城県における社会教育主事講習が存続し、茨城県の生涯学習・社会教育がさらに発展していくことを切に願っています。

コロナ禍の中でスタートしてから、行動制限が解除されつつある今後、どのように活動を花開かせていくことができるかの一年となりますね。アントレプレナーシップという言葉も聞く機会が増えてきた現在、いち早くこのジャンルに取り組んできた本学の特徴を出せることを期待しています。今後、外に向けての発信にもさらに期待したいと思います。

①の全体についてでも述べましたが、実に多くの取組みがなされていると思います。他方、これらの取組みが県内の方にどれだけ知られているのかを考えると疑問です。もっといいと思います。これだけ地域社会のために取り組んでいますよ、というPRも今後は重要になってくるのではないのでしょうか。

茨城大学社会連携センターアドバイザーリーボード委員名簿

	氏名	会社名	役職名	任期	適用条項
1	岡本 俊一	関彰商事株式会社	取締役 常務執行役員 ウェルビーイング本部長	R04.09 ～ R06.03	内規 第3条 (1)
2	池田 馨	特定非営利活動法人ひと・ まちなっとわーく	理事長	R04.09 ～ R06.03	内規 第3条 (1)
3	鈴木 麻美	茨城県	政策企画部計画推進課長	R04.09 ～ R06.03	内規 第3条 (1)
4	光畑 由佳	有限会社モーハウス	代表取締役	R04.09 ～ R06.03	内規 第3条 (1)
5	山路 薫	株式会社日刊工業新聞社	茨城支局支局長	R04.09 ～ R06.03	内規 第3条 (1)